財団法人 東洋文庫年報

昭和 59 年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 昭和59年度

目　　次

Ⅰ　昭和59年度の東洋文庫 ……… 3

Ⅱ　図　書　事　業 ……… 5

1.　図書資料の収集 ……… 5

2.　図書資料の保存整理 ……… 6

3.　図書資料の閲覧 ……… 6

4.　資料複製増刷サービス ……… 7

Ⅲ　研　究　事　業 ……… 8

1.　調　査　研　究 ……… 8

ⅰ　文部省科学研究費による調査研究 ……… 8

ⅱ　一般調査研究 ……… 11

ⅲ　特別調査研究 ……… 13

ⅳ　研究委員会 ……… 14

2.　学術図書出版 ……… 15

3.　講　演　会 ……… 16

4.　研　究　会 ……… 17

5.　研究者養成 ……… 18

6.　国内・国外研究者への便宜供与 ……… 18

ⅰ　国内研究者の受入 ……… 18

ⅱ　外国人研究者の受入 ……… 18

ⅲ　外国人・外国人研究者への便宜供与 ……… 19

7.　職員の研究業績 ……… 23

Ⅳ 業 務 報 告 …… 37
1. 総 務 報 告 …… 37
2. 人 事 報 告 …… 39
Ⅴ 役職員名簿 …… 41
1. 役　　員 …… 41
2. 東洋学連絡委員会委員 …… 43
3. 名誉研究員 …… 44
4. 職　　員 …… 44
5. 臨 時 職 員 …… 47
Ⅵ 財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センター事業 …… 48
1. 調査研究事業 …… 48
2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動 …… 53
3. 出版物の作成 …… 56
4. 業 務 報 告 …… 60
5. 役職員名簿 …… 63

Ⅰ　昭和59年度の東洋文庫

東洋文庫の窮状を訴えて寄附を要請すると，「そんな今にも潰れかけている私設の研究機関に寄附するよりは，前途洋洋たる国立の機関にした方が，寄附のし甲斐があるから」と諺（にべ）もなく追払われることが，屢々ある。

金がないから貸して下さいと申入れると大抵ことわられるが，金がたっぷり有るような顔をしていると，これも使って頂けませんかと逆に資金の提供を申込まれることのあるのと，よく似た心理である。

経営困難な私設の研究機関よりも，一見研究の設備が整い，その道の権威が顔を揃え，研究費にも運営費にも事欠かないように見える国立の研究機関に一般人の関心が向けられるのは致し方ないが，一般人に理解されていると思えないのは，そうした国立の研究機関と東洋文庫との根本的な相違である。

国立の研究機関は，それと関係のない一般人が利用したいと思う時に，何時でも行ってその資料なり設備なりを利用できる解放された機関ではない。それはそこに所属する教授以下助手に至るまでの研究職員だけに利用を許されているものなのである。この頃ではやや門戸がひろげられて，一般人の図書利用が認められるようになったが，それが本来所属の研究職員のためのものであるという原則には些かの変更もない。例えば或る書物を見せて貰いに行っても，それが所属の研究職員が使用している場合には，見せて貰えない。

東洋文庫は全くその逆である。東洋文庫にも日本人・外国人を含めて70人に近い研究員がいる。そして東洋文庫に来てそれぞれの題目について研究している。そして数多くの書物が研究室に持出されているが，外来者がそれを必要とする場合には，仮に現在頁を開いて読んでいる場合でも，直ちに外来者の用に供せられる。

東洋文庫からはまた年々尠からぬ数の刊行物が出されている。しかし，それも研究員による研究成果をのみ世に送るためのものではない。何人の業績であろうと，著者が希望し，東洋文庫が発表するに値すると認めたものであれば，東洋文庫の刊行物として出版している。

要するに，東洋文庫は東洋学研究を奨励し促進することを第一目標としているところの共同利用の研究機関なのである。

財団法人東洋文庫が設立された大正13年（1924）11月19日当時の日本には，東洋学研究のための専門機関は全くなかった。東洋学関係の講座の設けられていた大学も寥々たるものであった。その時出現した東洋文庫が日本の東洋学研究の共同利用の機関として，その推進の中心たることを自らの使命と考えたのは，極めて自然のことである。その後，大東亜戦争中に多くの研究機関の設立を見，第二次大戦後に一層多くの関係機関や施設の整備を見たことは，人々のよく知る所であるが，それらがいずれも特定人による，特定人のための機関であることを考えると，一般に解放された，共同利用の研究機関として設立され，成長して来た東洋文庫を，これからも益々発展させなければならないことは，言わずして明かであろう。

財団法人設立以来，今年で61年。その間東洋文庫は設立当初の目的を遂行すべく，懸命の努力を続けて来た。重ねて言う，東洋学の共同利用機関であることこそが，東洋文庫の存在理由なのである。世界における東洋学に関する資料や研究の出版は，戦後年々その数を増している。その代表的なものだけでも集めようとすれば，毎年何億かの予算が必要であるばかりでなく，その整理閲覧に要する人員や設備の増加をも考えるならば，更に何億かの費用が必要である。その何十分の１かのことしか出来ない今の東洋文庫の財政事情に思い至る時，泌々我が力の足りなさを嘆ずるのみである。

しかしそうした東洋文庫に絶えず無限の励ましを与えて下さるのは，東洋文庫の経営に当って恩師・先輩の諸先生が身を以って示して来られた努力の跡である。「精神一到，何事か成らざらん。」これは白鳥庫吉先生が請われると常に揮毫して与えられた金言である。先生自らもこれを座右の銘として研究や事物の処理に当られた。長く先生の身近かに居られた令嬢君子氏は，先生が如何にこの金言の実行に忠実であられたかを目の当りに見て，常に深い感銘を受けられたという。和田清先生は始め研究員として，後には理事をも兼ねて戦後の難局に当られたが，painstaking methodの一語を以って処世の要諦とすべきことを教えられた。先生は常に，一向に勉強しているように見えないのに，よく出来るのが本当の秀才だと言っておられたが，今にして思えば，それは所謂たてまえであって，ほんねはpainstaking methodであったのである。さらに，前の理事長であられた辻直四郎先生は，その愛蔵の一万二千冊を越える専門の洋書を東洋文庫に遺贈されたが，その一冊として先生の手沢の跡を残していないものはない。先生はさらに十数万枚に上る手書きのカードをも東洋文庫に恵与された。それは資料集でもあり，読書ノートでもあり，組織的書誌でもあって，実に先生50年の刻苦精励の結晶である。先生は西條八十作詞するところの王将を愛誦されていたらしく，戯れに作られた歌謡の一つに，「梵語いろはの片言まじり／賭けた命の50年／生れお江戸の日本橋／水に映るよ泣き笑い」というのがある。これを50年の功業がなお本来の志望を達するに至っていないことを嘆ずる先生の心境の一端を覗かせたものとする私の受止め方は，恐らく誤っているであろう。先生は必ず王将の第三節，「明日は東京に出て行くからは／なにがなんでも勝たねばならぬ／空に灯がつく通天閣に／おれの闘志がまた燃える」に自らの志を壮んにしておられたのではあるまいか。大阪生れの坂田三吉が「おいらの意気地」（第一節）とか「おれの闘志が」などと言う筈はないと感ぜられながらも。いずれにせよ，学問の化身のような先生は，東洋文庫の一隅に厳存する遺書とカードとを通して，無言の激励を後輩に与えて下さっているのである。

東洋文庫を励ましてくれるもう一つは，図書の利用や研究成果の刊行や東洋学講座への出席を通じて，東洋文庫を利用し，その存在理由を認めてくれる一般人の数が増えつつあることである。

東洋文庫が60年以上に亘って学界に貢献した功績は，過少に評価されてはならない。しかも東洋文庫のような機関の存在は今日においては勿論，これからも益々必要である。それを思えば，潰れかかっているからと言って，潰してしまった方がさっぱりするなどと考えるべきものではあるまい。

Ⅱ 図書事業

1. 図書資料の収集

購入・交換・受贈によって収集した資料は，一般文献資料のほか，特に中央アジア特別研究資料・東アジア特別研究資料・西アジア特別研究資料があり，昨年度より20,792冊増加した。しかし，財団法人東洋文庫の財政的危機をのりきるために萬やむを得ざる措置として広橋家旧蔵文書356点を昨年度に続いて国立歴史民俗博物館へ譲渡したため，蔵書数は662,710冊となった。

・資料購入

	和漢書	洋書	その他	マイクロ・フィルム	計
	冊	冊	冊	リール	冊
一般文献資料	47	105			152
中央アジア特別研究資料	5	381			386
東アジア特別研究資料	2,470	40			2,510
西アジア特別研究資料	8	214			222
チベット特別研究資料			25		25
近代中国特別研究資料	1,784	180		19	1,983
計	4,314	920	25	19	5,278

・資料交換

	受贈			寄贈		
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計
	冊	冊	冊	冊	冊	冊
単行本(冊)	1,377	494	1,871	889	1,492	2,381
定期刊行物(冊)	11,904	1,739	13,643	198	779	977
計	13,281	2,233	15,514	1,087	2,271	3,358

2.　図書資料の保存整理

・補修再製本・製本

区分	単行本	定期刊行物	複写資料製本	複写資料製帙	その他
数量	59冊	1,290冊	612冊	255冊	2,654冊

・撮影・焼付

区　分	撮影コマ数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
数　量	7,731コマ	35,039枚	10リール

3.　図書資料の閲覧

・図書利用状況

本年度の所蔵図書の利用状況は次の通りであった。

月	開館日数	閲覧者数	一日平均	昨年同月との比（△印は減）	閲覧図書数	一日平均	昨年同月との比（△印は減）
	日	人	人		冊	冊	
4	23	320	14弱		4,883	212強	
5	24	436	17強		4,685	195強	
6	25	412	17弱		5,198	208弱	
7	25	518	21弱		5,674	227弱	
8	26	489	19弱		7,618	292強	
9	22	370	17弱	16	4,819	219強	△1,420
10	25	422	17弱	△ 43	6,434	257強	△ 646
11	22	475	21強	△ 38	6,015	273強	△1,835
12	22	485	22強	30	5,478	249	△1,038
1	21	274	13強	14	4,705	224強	△ 140
2	22	273	14強	△ 90	3,432	156	△ 759
3	24	320	13強	△ 32	4,295	179弱	△ 904
計	281	4,794			63,236		

・閲覧図書数内訳

月	和書 部数	和書 冊数	漢書 部数	漢書 冊数	洋書 部数	洋書 冊数	合計 部数	合計 冊数
4	306	656	546	3,796	233	431	1,085	4,883
5	340	585	659	3,712	280	388	1,279	4,685
6	448	975	677	3,886	206	337	1,331	5,198
7	531	881	812	4,101	339	692	1,682	5,674
8	406	828	932	5,982	324	808	1,662	7,618
9	292	725	671	3,708	214	386	1,177	4,819
10	232	630	804	5,277	343	527	1,379	6,434
11	341	493	872	4,900	436	622	1,649	6,015
12	417	726	790	4,594	409	608	1,616	5,928
1	289	589	528	3,823	175	293	992	4,705
2	226	322	442	2,758	219	352	887	3,432
3	296	387	567	3,441	309	467	1,172	4,295
計	4,124	7,797	8,300	49,978	3,487	5,911	15,911	63,686

4. 資料複製増刷サービス

国内外の研究者・研究機関の閲覧の便宜に供するために行なったもので，実績は下記の通りであった。

・マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
1,036件	150,565齣	172,026枚	298,648齣

・電子複写

申込件数	焼付枚数
1,076 件	64,954 枚

Ⅲ 研究事業

1. 調査研究

調査研究は，文部省科学研究費補助金によるものと，国庫の補助金による一般・特別調査研究とにわかれる。

i 文部省科学研究費による調査研究

一般研究（A）

【課　題】 ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び通商に関する基礎的研究

【期　間】 昭和59年度（3ヶ年継続最終年度）

【目　的】 ここでいうユーラシア，すなわち北アジア・中央アジア・西アジア・南アジア・東アジア及び東ヨーロッパという，各地域に関する個別の歴史学的・文献学的研究は，我が国においても近年とくに著しく発展し，世界のレベルをリードする分野も少くない。しかし，これらの地域の歴史は，決して孤立して展開してきているわけではなく，相互に強い影響を与えあって現代に至っていることは疑いない。加えて，近年の各国における実地調査の成果も活発に現われはじめ，ユーラシア地域に共通する社会史上の諸要素が抽出されてきている。そこで，本研究では，その諸要素のうち，現代に至るまでの時代を通じるものとして，遊牧・農耕・通商の3点に注目した。この観点に立って，まず第一に，近代以降に刊行された各地域における現地調査に関する文献と，その基礎となる現地語を中心とした資料の調査と研究を行い，現在わが国に存在しないものを中心に収集に務める。第二に，近代以前に溯って，同じくこのテーマに関する基本文献の調査研究及び収集を行う。財団法人東洋文庫は，既にユーラシア地域研究の一大センターとして機能しているが，その充実と，今後ますます増加すると思われる研究者への便宜のために，本研究の最終目的は，今後のわが国及び外国のユーラシア社会史研究にとって着実で実効のある指針を提示し，かつ，収集した資料・図書を整理したうえで公開する，という二点にある。

【事　業】 本年度は，最終年度に当って以下の研究実施計画を行った。

⑴，近代以後に刊行された各地域における現地調査に関する文献と，その基礎となる現地語を中心とした資料の調査と研究とを行い，現在我が国に存在しないものを中心に収集に努めた。

⑵，近代以前に溯って，同じくこのテーマに関する基本文献の調査・研究及び収集・整理を継続した。

⑶，随時に，研究会を催し，各分担研究者の調査・研究の成果，及び収集された資料に基づいて相互討論を重ね，ユーラシア社会史研究の方法・キーポイントを一層鮮明にすることができた。

財団法人東洋文庫は，既にユーラシア地域研究の一大センターとして機能しているので，その充実と，今後ますます増加すると思われる研究者への便宜のために，本研究の最終目的として，今後の我が国及び外国のユーラシア社会史研究にとって着実で実効のある指針を提示し，かつ収集した資料・図書を整理したうえで公開して有効に活用するという二点にあったが，本研究では，ほぼ初期の目的を達成することができた。なお，その研究成果をまとめて『報告書』を刊行した。

【代表者】 榎　一雄

【分担者】 統　　　括：榎　一雄
北アジア班：松村　潤，岡田英弘，護　雅夫
東　欧　班：護　雅夫，永田雄三
西アジア班：永田雄三，後藤　明，志茂碩敏
東アジア班：神田信夫，田中正俊
中央アジア班：榎　一雄，梅村　坦

一般研究（B）

【課　題】 近・現代中国にかんする新聞報道の研究

【期　間】 昭和59年度（2ヶ年継続事業初年度）

【目　的】 近代の中国は，日本や欧米の諸列強にとってもっぱら武力行使をともなった経済的侵略による勢力圏拡大の対象であった。そして従来，これら諸列強の政策と侵略の実態については多くの研究がなされてきた。いまや必要なことは，単に政府の政策レベルだけではなく，それを支えた各国民の意識にまでわれわれの考察を深めることである。その一つの方法として，本研究は，国民意識の啓発と国民世論の形成のうえに大きな影響力をもつ各国の新聞が，中国情勢・中国における

諸事件についてどのような報道をおこない，いかなる論調を展開してきたかを検討するものである。

【事　業】 本年度は，次のような活動を行なった。

中国の近・現代史において内外から注視された諸事件・問題について，日本や欧米の新聞がどのような報道をおこない，いかなる論調を展開したかを研究するもので，とくに太平天国，辛亥革命，西安事変について各研究分担者は担当するテーマの関係記事を収集し，検討をくわえた。その主要点はつぎのとおりである。

1. 太平天国には当時とくに欧米人の関心が高く，North China HeraldやChina Mailなどはかれらの情報源として重要な役割を果したとみられる。本研究ではNorth China Heraldを重点的にとりあげることとし，同紙の関係記事をカードにとり，これを報道記事，論説，中国文献の翻訳などに分類して整理した。さらにChina Mail とも照合しつつ，これらの報道が欧米人の太平天国観の形成にどのように作用したかを考察した。

2. 辛亥革命については日本の新聞報道をとりあげることにしたが，東京の新聞論調の簡単な紹介はすでに行なわれているので（吉川尚「中国辛亥革命に対する我国の輿論」），経済面において中国と独自の関係をもつ大阪の『朝日新聞』の論調を調査した。

3. 西安事変については，日本の東京『朝日新聞』とソ連の『プラウダ』をみた。事変勃発当時，外部では事変の原因，その後の展開について情報が不十分であった事情を考えて，事変の性格に関する論調とともに事実問題についての報道内容をも検討した。また，『プラウダ』は事変の背後に日本の策動があったとみて日本の新聞報道にも注目していた点にかんがみ，それらの記事にはとくに注意をはらった。

4. 東洋文庫所蔵の中国関係の新聞の目録を作成した。

【代表者】 本庄比佐子

【分担者】 西安事変班：本庄比佐子，市古　宙三
太平天国班：河鰭　源治，市古　宙三
辛亥革命班：坂野　正高，山根　幸夫
日清戦後班：田中　正俊
所蔵目録作成：本庄比佐子

ii 一般調査研究

本年度は，特に，近代中国研究委員会，南方史研究委員会を中心に調査研究を行った。

東亜考古学研究委員会

【資料の整理】 梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真，実測図，拓本，野帖等）の整理とその目録の作成。（特に，日本の部，中国の部の青銅器資料の整理とその目録の作成を行なった。）（前年度の継続）

古代史研究委員会

【資料の整理】 東洋文庫所蔵中国画像名，造像名，墓碑銘等拓本の研究整理。

唐代史（敦煌文献）研究委員会

【資料の収集・整理・研究及び情報提供】 (1) 国内国外に現存する西域出土古文書の所在調査と，マイクロ・フィルムによるその収集・整理。

(2) 内外の諸機関，研究者に対する既収集敦煌文献資料の公開，及び情報の提供。

(3) 内陸アジア出土古文献研究会の開催。（以上，前年度の継続）

7月14日（土） 佐藤道郎「ニューデリー国立博物館スタイン将来品Bol.0200神像」
池田 温「最近刊行の内陸アジア出土文書資料集について」

宋代史研究委員会

【資料の整理・研究及び情報活動】 (1) 宋代研究文献目録及び速報の作成。

(2) 『宋会要輯稿』食貨之部の要項及び語彙索引の作成（同食貨索引 ― 年月日・詔敕篇 ― 刊行済）。

(3) 『宋史』選挙志の研究並びに同研究会の開催。（以上，前年度の継続）

明代史研究委員会

【研究・整理】 (1) 謝貴『後鑑録』（明史資料叢刊第一輯）を主として，明代政治・社会に関する文献の講読・研究。（隔週，研究会の開催）

(2) 『明代各種経世文目録』の作成。（以上，前年度の継続）

清代史（満州・蒙古）研究委員会

【研究・整理】 (1) 「旧満洲檔」の整理研究。

(2) 「鑲紅旗檔」，乾隆朝（後半部分）の整理。（以上，前年度の継続）

日本研究委員会

【資料の研究・整理】 岩崎文庫貴重書書誌解題の作成。（前年度の継続）

朝鮮研究委員会

【研究・調査】 (1) 李氏朝鮮の財政・民政関係史料及び外交文書資料の講読・研究。

(2) 漢字の朝鮮音韻の研究・調査。

中央アジア・イスラム研究委員会

【資料の収集・研究】 (1) 『東洋文庫所蔵アラビア語・トルコ語・オスマントルコ語関係資料の増補目録』の作成。（同目録2分冊刊行済）

(2) 『日本におけるペルシャ語文献総合目録・索引』の作成。

(3) イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。（以上，前年度の継続）

6月2日	保坂修司	「ノアの箱舟説話について」
6月30日	東長　靖	「イブン・アラビーについて」
10月27日	新谷英治	「スルターン・ジェム時代のオスマン朝とヨーロッパ」
11月24日	川本正知	「スフラワルディー教団の修行 — Kitāb Ādāb al-Murīdīn の内容について」
2月2日	小野　浩	「‘Arḍ-nāma について — アク・コユンル国制理解の手がかり —」

(4) 隊商貿易史の研究。

(5) 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。

(6) イスラム社会の構造の研究。

(7) トルコ日本両国の近代化の比較研究。

南方史研究委員会

【資料の整理・研究】 (1) 『東洋文庫所蔵インド関係洋書分類目録(II)』の作成。

(2) 東洋文庫所蔵南アジア関係資料（辻文庫）の整理・研究とその分類目録(II)の作成。（分類目録(I)刊行済），（以上，前年度の継続）

(3) インド古代社会に関するサンスクリット語・パーリー語・漢文資料をマイクロフィルム，その他によって網羅的に収集し，その調査，分類の作成。

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目　　的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】

(1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

①前年度に引続き，トゥカン「一切宗義」ゲルク派の章のテキスト・邦訳の整備を進めた。

②前年度に引続き，「3世ダライラマ年代記」，「中論」の機械処理を進め，新たに「正理蔵」のテキストを整備し，機械処理を行った。

(2) チベット語文献の収集・整理

ボン教文献	25冊

(3) 研究成果の刊行

①『スタイン蒐集チベット語文献解題目録 ― 第9分冊 ― 』 B5判 1冊 （刊行済）

②『Texts of Tibetan Folktales (V)』（『チベット民話資料集(V)』） B5判 1冊 （刊行済）

(4) その他の事業

①チベット学に関する研究会の開催。

②東洋文庫所蔵チベット語文献の目録カードの整理及び研究。

近代中国特別調査研究（近代中国研究委員会）

【目　　的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】

(1) 共同利用研究

(2) 情報交換及び参考業務（近代中国研究事務室及び同参考図書室に於て，常時遂行）

(3) 図書・資料の収集，整理

区　分	和　漢　書	洋　　書	マイクロ・フィルム
数　量	1,784冊	180冊	19リール

(4) 研究成果の刊行

①『近代中国研究彙報　第7号』 A5判 1冊 （刊行済）

(5) その他の事業

①中国共産党資料の書誌的研究及び近・現代中国関係資料の整理・研究。

②「『解放日報』記事目録Ｖ ― Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ人名索引 ― 」の作成。

③近・現代中国にかんする新聞報道の研究。

④清末外交文書研究会の開催。

ⅳ 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は，５部門12研究委員会にわかれる。昭和59年度の各研究委員会の常任委員は以下のとおりである。

第１部　中国研究

東亜考古学：小山　勲，関野　雄，渡辺兼庸

古代史：越智重明，宇都木　章，河野六郎，渡辺兼庸

唐代史（敦煌文献）：榎　一雄，池田　温，菊地英夫，土肥義和，藤枝　晃，松本　明

宋代史：草野　靖，佐伯　富，斯波義信，周藤吉之，竺沙雅章，中嶋　敏，渡辺紘良

明代史：鈴木立子，田中正俊，鶴見尚弘，山根幸夫，丁　果，和田博徳

近代中国：市古宙三，臼井佐知子，河鰭源治，滋賀秀三，田中正俊，坂野正高
本庄比佐子，山根幸夫

第２部　日本研究

日本：石塚晴通，岩生成一，海野一隆，亀井　孝，酒井憲二，田中時彦，鳥海　靖
林　望

第３部　東北アジア研究

満州・蒙古（清代史）：榎　一雄，岡田英弘，神田信夫，松村　潤，渡辺　修

朝鮮：河野六郎，北村秀人，末松保和，田川孝三，森岡　康，大井　剛

第４部　中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：榎　一雄，梅村　坦，後藤　明，佐藤次高，清水宏祐，志茂碩敏
永田雄三，花田宇秋，本田實信，護　雅夫，八尾師　誠，
張　承志，今沢紀子

チベット：榎　一雄，川崎信定，北村　甫，松濤誠達，山口瑞鳳，テンパ・ゲルツェン，
ソナム・チュンペール

第５部　インド・東南アジア研究

南方史：荒　松雄，生田　滋，岩生成一，榎　一雄，後藤均平，原　實，三根谷　徹
山崎元一，山本達郎

2. 学術図書出版

東洋文庫欧文紀要

"Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko."
No.42　1984年刊　B５判　１冊

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』第66巻１・２・３・４号　昭和60年３月刊　A５判　662頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

中央アジア・イスラム研究委員会

『東洋文庫所蔵アラビア語文献目録（増補・改訂版）』　昭和60年３月刊　B５判　885頁

『東洋文庫所蔵トルコ語・オスマン語文献目録（増補・改訂版）』　昭和60年３月刊
B５判　808頁

近代中国研究委員会

『近代中国研究彙報』第７号　昭和60年３月刊　A５判　89頁

チベット研究委員会

『スタイン蒐集チベット語文献解題目録』第９分冊　昭和60年３月刊　B５判　125頁

『Texts of Tibetan Forktales (V)』(『チベット民話資料集(V)』)　昭和60年３月刊
B５判　261頁

東洋文庫諸目録其他刊行物

『東洋文庫新着図書目録 ― 和書・中国書・朝鮮書 ― 』第32号（1983年４月～1984年３月）　昭和60年３月刊　B５判　135頁

『東洋文庫書報』第16号　昭和60年３月刊　A５判　97頁

『東洋文庫年報』昭和58年度版　昭和60年３月刊　A５判　66頁

『ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び通商に関する基礎的研究』（昭和57・58・59年

度文部省科学研究費補助金・一般研究（Ａ）研究成果報告書） 昭和60年３月刊

Ｂ５判 298頁

『宋会要輯稿食貨索引 — 年月日・詔勅篇 — 』 昭和60年２月刊 Ｂ５判 172頁

『Author Index to a Classified Catalogue of Books in Section Ⅲ CHINA in the Toyo Bunko — Acquired During the Years 1917 − 1977）』 昭和60年３月刊 Ｂ５判 234頁

『Catalogue of the TSUJI Naoshiro Collection in the Toyo Bunko (Ⅱ)』 昭和60年３月刊 Ｂ５判 296頁

『Tun-huang and Turfan Documents concerning Social and Economic History Ⅱ — Census Registers （Ｂ） Plates — 』 昭和59年12月刊

Ａ４判 221頁

3. 講 演 会

春期 東洋学講座（財団法人東洋文庫創立60周年記念講演会）

第349回 昭和59年５月29日（火）
「清朝の開国説話」 東洋文庫研究員 日本大学教授 松村 潤氏

第350回 昭和59年６月５日（火）
「チベットの成り立ち」 東洋文庫研究員 東京大学教授 山口瑞鳳氏

第351回 昭和59年６月12日（火）
「前近代のアナトリアにおける都市化とワクフ文書」 東洋文庫研究員 東京外国語大学助教授 永田雄三氏

第352回 昭和59年６月19日（火）
「古代インドのカースト制度 — ヴァルナ制度と不可触民 — 」 東洋文庫研究員 国学院大学教授 山崎元一氏

秋期 東洋学講座（財団法人東洋文庫創立60周年記念講演会）

第353回 昭和59年10月23日（火）
「敦煌本の書誌 — 紙を主として — 」 東洋文庫研究員 北海道大学助教授 石塚晴通氏

第354回 昭和59年10月30日（火）
「春秋時代の夫人の呼称 — 「春秋」と「左伝」より — 」 東洋文庫研究員 青山学院大学教授 宇都木章氏

第355回 昭和59年11月６日（火）

「宋元版大蔵経について」　東洋文庫研究員 京都大学教授　竺沙雅章氏

第356回　昭和59年11月13日（火）

「明治維新期の士族反乱」　東洋文庫研究員 東海大学教授　田中時彦氏

（なお，春秋二期の各講演の要旨は，『東洋文庫書報』第16号に掲載されている。）

特別講演会

第1回　「ケーレシ・チヨーマ・シヤンドル生誕二百年記念講演会」

司　会；東洋文庫理事長代理　榎　一雄氏

挨　拶；ハンガリー大使館大使　カーロイ・サールカ氏

東海大学総長　松前重義氏

日本チベット学会会長　長尾雅人氏

発表者；「ラマ教の名称をめぐって」　東京大学教授　山口瑞鳳氏

「チョーマ菩薩像と大正大学」　大正大学教授　一島正真氏

「My general Inpressions on Kőrösi Csoma」　ニチャン・リンポチェ氏

「チョーマ・デ・ケレスのシンポジュームについて」

東京大学教授　高崎直道氏

第2回　昭和59年5月2日（水）

「The English Missionaries in Siberia-The London Missionary Society's Mission to the Buryats, 1817 – '40」　ロンドン大学教授　C. R. Bawden氏

第3回　昭和59年7月7日（土）

「清代前期経済在中国封建経済発展中的地位」　中国社会科学院 経済研究所副教授　方　行氏

「清代的賤良」　中国社会科学院 経済研究所副教授　経　君健氏

第4回　昭和60年3月23日（土）

「書儀中所見之婚喪礼俗」　北京大学教授　周　一良氏

4. 研　究　会（東洋文庫談話会）

・昭和59年5月12日（土）

「元代のAlmalik, Bolat, Emil三城についての調査」　東洋文庫外国人研究員・中国社会科学院民族研究所助理研究員　張　承志氏

・昭和59年10月13日（土）

「清初の遼人（漢軍）とその任用

― 順治年間（ 1644 ～ 60 ）を中心に ― 」	東洋文庫奨励研究員	渡辺　修氏
• 昭和59年11月24日（土）		
「高麗時代の渤海系民大氏について」	日本学術振興会流動研究員 大阪市立大学教授	北村秀人氏

（なお，この談話会の発表要旨は，『東洋文庫書報』第16号に掲載されている。）

5. 研究者養成

中国研究	渡辺　修	「清代政治史研究 ― 特に満・漢交渉の推移を中心に ― 」
中国研究	大井　剛	「隋唐時代における東アジア国際関係史研究」
西アジア研究	今沢紀子	「エジプトの対西欧従属過程に関する研究」

6. 国内・国外研究者への便宜供与

i 国内研究者の受入

北村秀人	日本学術振興会流動研究員 大阪市立大学教授	「高麗・李朝時代の地域社会と地方行政（昭和59年6月1日～同年11月30日）」

ii 外国人研究者の受入

Tenpa Gyaltsen	東洋文庫招聘研究員	「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」（昭和54年度以降）（昭和59年7月8日帰国）
張　承志	中国社会科学院民族研究所助理研究員	「モンゴル帝国史の研究 ― 中央アジア諸族の動向を中心として ― 」（昭和58年度国際交流基金の招聘による）（昭和59年6月10日帰国）
丁　果	上海師範大学歴史系助手	「近代日中関係史及び日本近現代史の研究」（中国政府の派遣費による）（昭和59年10月以降約2ヶ年間）
Sonam Choephel	東洋文庫招聘研究員	「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」（昭和60年3月以降約2ヶ年間）

iii 外国人・外国人研究者への便宜供与

Czechoslovakia	
Karol Kutka	(Prof.) Dept. of Oriental Studies, Literary Institute of the Slovak Academy of Sciences
France	
C. Schifferli	国立科学研究院敦煌文献研究所研究員
Andre Ross	在日フランス大使館大使
Pierre Barroux	〃 広報部長
Hungarian People's Republic	
カーロイ・サールカ	在日ハンガリー大使館大使
シャーンドル・ラーツ	〃 書記官
ラースロ・ダーン	〃 館員
レーポ・ゾルターン	Industrial Designer, Sculptor
Hong kong	
陳 勝長	香港中文大学中国語言及文学系講師
Korea	
南 豊鉉	檀国大学校教授
朴 永錫	韓国国史編纂委員会委員長
鄭 五根	〃 〃 会員
全 寅初	延世大学校教授
金 用淑	淑明女子大学校教授
嚢 賢淑	啓明専門大学校教授
金 英淑	東洋服飾研究院教授
趙 成銓	韓国振興財団理事長
崔 承熙	ソウル大学校教授，奎章閣室長
呉 金成	ソウル大学校教授
都 珖淳	漢陽大学校教授
河 宇鳳	全北大学校助教授
朴 善姫	〃 〃
姜 昌一	〃 〃
李 鐘珏	〃 〃
朴 仁和	〃 〃
李 相殷	ソウル大学校図書館奎章閣室員
全 佑億	〃 経営大学（教授）
柳 基龍	慶北大学校教授

李　良燮	建国大学校家政大学教授
卞　麟錫	釜山産業大学校教授，博物館館長
Mongolia	
N. Ishjamts	Dr. of Hist. Corr. member of Academy of Sciences, MPR (Institute of Oriental Studies)
ドンゲル　ヤイケル	モンゴル人民共和国科学アカデミー東洋学研究所研究員
Netherlands	
K. Rintenbeek	(Prof.) Leyden Univ.
H. Zurnodorfer	Prof. Leyden Univ., Sinologisch Institunt
People's Republic of China	
包　祥	内蒙古大学副校長，副教授
喃精札布	〃　蒙古語言研究所所長
王　仲犖	山東大学歴史系主任教授，山東省歴史学会会長
孫　文良	遼寧大学副教授
方　行	中国社会科学院経済研究所副教授
経　君健	〃　〃　〃
張　奔流	〃　〃　〃
姜　伯勤	中山大学歴史系副教授，敦煌文物研究所兼任研究人員
夏　応元	中国社会科学院歴史研究所副研究員
巴　岱	新疆ウイグル自治区副主席，自治区農工教育委員会主任
荆　燐	〃　〃　人民政府辦公室主任
鉄列吾汗	〃　〃　教育庁副庁長
韓　志光	〃　〃　副主席秘書
黄　健民	中国国際旅行社ウルムチ分社通訳
国　仲元	北京大学図書館視听部主任
李　国梁	厦門大学南洋研究所助理研究員
丁　日初	上海社会科学院経済研究所研究員
何　重仁	中国社会科学院近代史研究所副研究員
玉　学庄	〃　〃　〃
姜　漢章	〃　外事局副局長
馬　士沂	北京大学図書館副館長
丁　郷	上海社会科学院経済研究所
陳　橋駅	杭州大学地理系教授
胡　徳芬	浙江農業大学日本語講師

周　一良	北京大学歴史系教授
張　　磊	広東省社会科学院副院長，副研究員
李　　微	中国社会科学院外事局幹部
Republic of China	
呉　密察	国立台湾大学歴史系助手
王　　璽	中央研究院近代史研究所研究員
陳　擎光	国立故宮博物院陶器課職員
黄　福慶	中央研究院近代史研究所研究員
王　賢徳	高雄師範学院副教授
林　明徳	中央研究院近代史研究所研究員
Republic of India	
S. K. Chaudhuri	Teacher, Delhi University
Singapore	
陳　栄照	新加坡課程発展署助教授
劉　恵霞	〃　〃　〃
辜　美高	(Prof.) National Univ. of Singapore
魏　維賢	新加坡南洋学会（会員）
楊　秀欽	新加坡課程発展署（教授）
J. R. Clammer	D. Phil, Senior Lecture, Univ. of Singapore
Sweden	
趙　承福	Prof., Univ. of Stockholm, Director of the Institute of Oriental Languages
Turkey	
Bilal Aykut	（書記官）Turkish Embassy
United Kingdom	
Charles R. Bawden	Prof., Univ. of London
K. N. Chaudhuri	(Prof.) School of Oriental of African Studies, Univ. of London
Geoffrey Parker	Prof. of Early Modern History, Univ. of ST. Andrews
U. S. A.	
G. A. Hoston	Assistant Prof. of Political Science, The Johns Hopkins Univ.
James Cole	コーネル大学東洋館長
B. E. Mcknight	Prof., Department of History, Univ. of Hawaii

D. R. Howland	Ph. D. Caudidate, University of Chicago
Andrew H. Plaks	Prof., Princeton University
ジヤクチト　セチン	Brigham Young大学
Nick Menzies	Univ. of California, Barkeley Campas.

7. 職員の研究業績

期間：昭和59年4月1日～昭和60年3月31日まで

略号：①‥著書　②‥編書　③‥論文　④‥学会動向　⑤‥書評・紹介　⑥‥翻訳
⑦‥講演・研究発表　⑧その他　（評論・雑記・座談会等）

池田　温

③「中国古代の猛獣対策法規」（『瀧川政次郎博士米寿記念論集・律令制の諸問題』，611～637頁，汲古書院，1984年5月），「中国古代買田・買園券の一考察 — 大谷文書三点の紹介を中心として — 」（『西嶋定生博士還暦記念・東アジア史における国家と農民』，259～296頁，山川出版社，1984年11月），「唐代敦煌均田制の一考察 — 天宝後期敦煌県田簿をめぐって — 」（東洋学報66－1・2・3・4，1～31頁，東洋文庫，1985年3月），「高昌三碑略考」（『三上次男博士喜寿記念論集・歴史編』，102～120頁，平凡社，1985年3月），④「最近における唐代法制資料の発見紹介」（『中国律令制の展開とその国家・社会との関係』，62～74頁，刀水書房，1984年6月），⑤「増井経夫著『中国の歴史書』」（週間読書人1984年11月12日，4面），「山口瑞鳳著『吐蕃王国成立史研究』」（社会経済史学50－4，116～118頁，1984年12月），「小田義久責任編集『大谷文書集成㈠』」（史学雑誌94－1，103～104頁，1985年1月），「中村裕一「唐代の南選制と嶺南地方に就いて」」（法制史研究34，356～357頁，1985年3月），⑧「共通試験の改善にむけて」（東大新報1984年4月18日，3面），「しあわせな死」（月刊健康258，10・11頁，1984年9月），「東京大学東洋文化研究所の現況」（東方学会報47，5～7頁，1984年12月）。

石塚　晴通

①「高山寺資料叢書第14冊『高山寺經藏古目録』」（共著，「法鼓臺聖教目録」担當，東大出版會，1985年2月，342頁），③「岩崎本日本書紀初點の合符」（東洋學報66－1・2・3・4，33～61頁，東洋文庫，1985年3月），「岩崎文庫貴重書書誌解題稿㈠」（東洋文庫書報16，1～13頁，東洋文庫，1985年3月），⑦「敦煌本の書誌」（東洋文庫秋期東洋學講座，1984年10月23日，要旨；東洋文庫書報16，84・85頁），「日本書紀古訓の性格 — 図書寮本を主として — 」（第3回新村出賞記念講演，1984年12月9日），⑧「日本書紀古訓の研究」（毎日新聞1985年1月16日夕刊），「日本書紀古訓研究の周辺」（北海道新聞1985年1月16日夕刊）。

岩生　成一

③「蘭文史料から見た三浦按針とその家族」（日蘭学会創立十周年記念誌，８・９頁，日蘭学会，1985年３月），「明末日本僑寓シナ貿易商一官アウグスチン李国助の活動 ―<明末日本僑寓支那甲必丹李旦考>補考 ― 」（東洋学報66－１・２・３・４，63～86頁，東洋文庫，1985年3月），⑧「鎖国日本のコスモポリタン」（中央公論99－8，39・40頁，中央公論社，1984年８月）。

梅村　　坦

③「内陸アジアの遊牧民 ― ウイグル族における時間と空間 ― 」（『イスラム世界の人びと３　牧畜民』，109～149頁，東洋経済新報社，1984年10月），⑤「『アジア歴史研究入門4，内陸アジア・西アジア』」（東西交渉12，32～34頁，井草出版，1984年12月），⑦「シルクロード ― ことば・文化・歴史 ― 」（第18回立正大学教養部公開講座，1984年10月８日），⑧「遊牧 ― 農耕関連論序説 ― ユーラシア地域を中心として ― 」（文部省科学研究費補助金・一般研究(A)研究成果報告書『ユーラシア社会史における遊牧・農耕及び　通商に関する基礎的研究』，５～11頁，東洋文庫，1985年３月）。

海野　一隆

①『ちずのしわ』（雄松堂出版，1985年３月，350頁），③「西洋製初期日本図の系統分類」（石田寛編『外国人による日本地域研究の軌跡』，105～123頁，古今書院，1985年１月），「喎蘭新訳地球全図』における参照資料 ― 山村昌永の批評との 関 連 において ― 」（有坂隆道編『日本洋学史の研究』Ⅶ，65～102頁，創元社，1985年３月），「バーロス『アジア十巻書』所引のシナ刊コスモグラフィアなるものについて」（東洋学報66－１・２・３・４，87～107頁，東洋文庫，1985年３月），⑦「近世日本人の国土観」（日本地理学会秋季学術大会，1984年10月14日，要旨：日本地理学会予稿集 26，16・17頁），「東大寺開田図における方格と条里」（人文地理学会157回例会，1984年12月８日，要旨：人文地理 36－６），⑧「埋もれている江戸時代の官撰地図」（月刊古地図研究 15－９，10，２～11，10・11頁，日本地図資料協会，1984年11，12月），「タバコ島」（近畿七高会会報 12，45～50頁，1984年12月），「「亜西亜略図」ほか52項目」（日蘭学会編『洋学史事典』雄松堂出版，1984年９月），「解題」（藤田元春『改訂増補 日本地理学史』668～674頁，原書房，1984年10月），「石川流宣」（『平凡社大百科事典』1，898頁，1984年11月），「絵図」（同2，534・535頁），「オルテリウス」（同2，1190頁），「カッシニ家」（同3，421・422頁），「行基図」（同4，270・271頁），「司馬江漢」（同6，1059頁，1985年３月），「地球儀」（同9，599頁），「地図 ― 歴史 ― 」（同9，637～650頁），「トスカネリ」（同10，883頁）。

榎　一雄

①『商人カルレッティ』（13×19㎝。，Ⅳ＋280＋22頁，地図一葉，大東出版社，1984年10月），③「人間の学としての歴史学 ― イブン＝ハルドゥーンの場合 ―」（アラブトピックス№11／4，4～12頁，1984年5月），「魏志倭人伝とその周辺 ― テキストを検討する ―㈥，㈦，㈧，㈨」（季刊邪馬台国20・21・22・23，138～150・102～115・168～181・120～131頁，梓書院，1984年6月・9月・12月，1985年3月），「明末のマカオ㈠，㈡，㈢，㈣」（季刊東西交渉3－2・3・4，4－1，14～23・14～19・14～23頁・14～19頁，井草出版，1984年6・9・12月，1985年3月），「紀元四世紀のアジアの国際情勢」（歴史と旅140，臨時増刊＜東アジアから見た邪馬台国＞，36～49頁，秋田書店，1984年8月），「新疆の建省 ― 二十世紀の中央アジア ―㈠，㈡」（近代中国15，16，158～190頁，36～69頁，巖南堂書店，1984年7月，12月），「北京博物館蔵「職貢図巻」」（歴史と旅145，154～161頁，秋田書店，1985年1月），「カルレッティの見た日本人⑴～⑽」（世界日報，1985年1月29日～2月2日，2月5日～9日），（支那の曲芸」（山紫水明127，147～17頁，村山達雄政治経済研究所，1985年3月），「禺氏辺山の玉」（東洋学報66－1・2・3・4，109～132頁 東洋文庫，1985年3月），「漢魏時期的敦煌」（徐秀霊訳，陳国灿校，西北史地1985年1期，94～102頁，蘭州大学，1985年3月），④「景徳鎮二題」（東方学68，155～167頁，東方学会，1984年7月），「徐光啓逝去三百五十年」（東方学68，171～176頁，東方学会，1984年7月），⑧「学問の思い出 ― 藤原楚水先生を囲んで ―」（＜1983年5月9日，宇野雪村・谷村憙斎・比田井南谷・鎌田博氏と共，於逗子・藤原邸＞，東方学68，187～208頁，東方学会，1984年7月），「幻人の世界 ― サーカスの原点表現文化を残したい―」（読売新聞，1984年3月31日夕刊），「サーカスの世界」（文芸春秋62－9，85～87頁，文芸春秋社，1984年8月），「サーカスは面白い㈠，だからサーカスは面白い㈡，㈢」（＜1984年12月7日，安岡章太郎・中上健次氏と共，於築地某料亭＞，朝日ジャーナル1984年12月7日・12月14日・12月21日号，26～31・40～44・42～45頁，朝日新聞社），「すべての道はローマに通ず（イスタンブール，ギリシャ，イタリア）」（シルクロード第12巻，巻頭座談会記事，日本放送協会出版社，1984年10月10日），「東西交渉史の窓」（聖教新聞7792，1984年3月29日），「秘庫の名品を慎択」（『敦煌書法叢刊』饒宗頤編，出版ダイジェスト1095，1984年6月30日），「書庫の一隅にて」（学術月報37―4（通巻475号），1頁，日本学術振興会，1984年7月），「日月私照なし」（日本の息吹5号，1985年1月），「邪馬台国と稲荷山刀銘」（『田中卓著作集　3巻』推薦文，国書刊行会，1985年3月），「伝統の確認」（祖国と青年77，日本青年協議会，1985年2月），「1984年読書アンケート」（みすず291，9～10頁，みすず書房，1985年1月），「最も重要な二つの行事」（国民新聞18,871，国民新聞社，1985年2月25日），「その紅の花かげに」（一高同窓会報137，5～6頁，1985年3月15日），「訃報二篇（1984）」（A.

R. DavisとG. Tucci両教授の訃，東方学68，127〜154頁，1984年7月），「山之口健君に対する弔辞」（向陵27－2，62〜68頁，1984年10月），「威信」（言論春秋311，1984年7月16日），「神武建国」（言論春秋342，1985年2月18日），「編集後記」（東方学68・69，1984年7月・1985年1月）。

大井　剛

③「義與愛 ― ルカ福音書7章47節の言語と思想 ―」（宮田光男主筆，義と愛200記念号，33〜40頁，「義と愛」社，1984年8月），⑤「新刊卒読：The Oxford Bible Reader's Dictionary and Concordance；Oxford Bible Atlas」（義と愛204，9〜12頁，1984年12月），⑦「集安の遺跡」（太田有子氏と共演，中国考古学の集い，1984年11月17日），⑧「異斯夫」（『大百科事典』1，平凡社），「于勒」（同2），「強首」「金憲昌」「金仁問」「金生」「金大問」「金庾信」「敬順王」「景徳王」（同），「元聖王」（同5，以上1984年11月），「崔致遠」（同6），「新羅坊」「真興王」「真聖王」（同7），「薛聡」（同8），「張保皐」（同9，以上1985年3月）。

越智　重明

③「東晋南朝の地縁性」（九州大学東洋史論集13，1〜27頁，九州大学文学部東洋史研究会，1984年10月），「秦漢時代の孝の一考察」（『西嶋定生博士還暦記念東アジア史における国家と農民』107〜132頁，山川出版社，1984年10月），「梁時代の貨幣流通をめぐって」（東洋史研究43－3，28〜53頁，京都大学文学部東洋史研究会，1984年12月），「沈約と宋書」（東洋学報66－1・2・3・4，179〜202頁，東洋文庫，1985年3月）。

岡田　英弘

②『札奇斯欽著　我所知道的徳王和当時的内蒙古(一)』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1985年3月，112頁），③「日本の古代政権は大陸の影響のもとに成立した」（歴史読本臨時増刊号29－10，50〜52頁，新人物往来社，1984年6月），「邪馬台国は存在しなかった」（歴史と旅臨時増刊号11－11，280〜290頁，秋田書店，1984年8月），“Mongol chronicles and Chinggisid genealogies”（『第一屆亜洲族譜学術研討会会議記録』，39〜55頁，聯合報文化基金会国学文献館，1984年9月），「徳王と日本とモンゴル独立運動 ― 傀儡か，民族の英雄か」（月曜評論728・9，4頁，月曜評論社，1985年1月7日），「元朝秘史の成立」（東洋学報66－1・2・3・4，157〜177頁，東洋文庫，1985年3月），④「国際中国辺疆学術会議」（通信53，22〜27頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，1985年3月），「第27回国際アルタイ学会」（同，27〜32頁，），「第21回野尻湖クリルタイ」（同，32〜37頁），⑤「陳高華著『元の大都』」（サンケイ15069号，7頁，産業経済新聞東京本社，1984年

7月23日），⑥「ニコラス・ポッペ著『ニコラス・ポッペ自叙伝抄』」（東方学69，140～157頁，東方学会，1985年1月），「ミハエル・ヴァイアース著『ヴァルター・ハイシヒと戦後ドイツにおけるモンゴル学』」（同，158～162頁），⑦“Present state of China border area studies in Japan”（国際中国辺疆学術会議，台北，1984年4月25日），“Life and work of Dayan Khan”（同，1984年4月25日），“The Chinggis Khan shrine and the Secret History of the Mongols”（27th meeting of the Permanent International Altaistic Conference, Walberberg，1984年6月14日），「海外報告 ―国際中国辺疆学術会議，第27回国際アルタイ学会（PIAC）」（第21回野尻湖クリルタイ，長野県上水内郡信濃町，1984年7月16日），「中国文明の基本構造とは何か」（日本文化会議横浜セミナー，横浜，1985年3月12日），「日本民族の源流」（中小企業能率センター文化教養セミナー，大阪，1985年3月20日），⑧「アンケート特集『角栄裁判』論争をどう思いますか？」（諸君！16－9，55頁，文藝春秋，1984年9月）。

川崎　信定

①『中村元の世界』（峰島旭雄・前田専学，原実他共著，青土社，1984年3月，386頁），③「一切智者の存在論証」（平川彰・梶山雄一編『講座大乗9 ― 認識論・論理学』，293～339頁，春秋社，1984年7月），「チベットの仏教」（『日本宗教事典』，228～233頁，弘文堂，1985年2月），「仏教論理学」（平川彰編『仏教研究入門』，122～132頁，大蔵出版社，1984年6月）。

北村　秀人

③「高麗初期の在地支配機構管見」（人文研究36－9，47～65頁，大阪市立大学文学部，1984年12月），⑦「高麗時代の渤海系民大氏について」（東洋文庫談話会，1984年11月24日，要旨：東洋文庫書報16，96・97頁）。

草野　靖

①『中国の地主経済 ― 分種制』（汲古書院，1985年2月，544頁）。

小山　勲

③「松戸市紙敷遺跡出土の縄文時代中期初頭の土器」（下総考古学7，39～42頁，下総考古学研究会，1984年4月），⑦「勝坂式土器 ― 型式内容について ―」（下総考古学研究会，1984年9月22日），⑧「山内清男博士著作索引」（下総考古学研究会研究メモ215，4～10頁，下総考古学研究会，1984年11月），「山内清男博士著作索引」（下総考古学研究会研究メモ216，5～10頁，1984年12月），「山内清男博士著作索引」（下総

考古学研究会研究メモ218，3～8頁，1985年2月）。

河野　六郎

③「漢字論雑考」（『大東文化大学創立六十周年記念中国学論集』，437～450頁，1984年12月）。

後藤　明

③「自由都市メッカの人々」（三木亘・山形孝夫編『イスラム世界の人びと5　都市民』，187～222頁，東洋経済新報社，1984年10月），「ムハンマド伝の史料に関する覚書(I)」（山形大学史学論集5，1～9頁，山形大学人文学部教養部歴史学研究室，1985年2月），「『コーランにみえる預言者とその民」（東洋学報66－1～4，01～018頁，1985年3月），「「Al－Madīna at the Time of Muham-mad's Coming」（Orient，XX，33～41頁），⑦「Hagarism — Syria — pre-Islam and Islam」（東京外国語大学附属アジア・アフリカ言語文化研究所アジア・アフリカにおけるイスラム化と近代化に関する調査研究シリア分科会，1984年5月18日），「『コーランにみえる預言者とその民」（科学研究費総合研究イスラム圏における宗教運動に関する総合研究，1984年9月7日），「ムハンマドに関する資料の性格」（東京外国語大学附属アジア・アフリカ言語文化研究所内陸アジア史文字資料の研究，1984年10月15日），「イスラムは歴史のなかで何を棄たか」（国立民族学博物館共同研究会イスラームの民族学的研究，1984年12月8日），⑧「イスラム史の千夜一夜」（UMU — 百科プロムナード＜うむ＞4号，1984年10月，11～12頁），「ボスラの町とムハンマド」（歴史と地理354，26～27頁，1985年2月），「中世のエジプト」（『エジプト5000年をゆく(5)エジプトの全遺跡』，日本テレビ，1985年2月，125～128頁）。

佐伯　富

③「明代における竈戸について」（東洋史研究43－4，59～87頁，京都大学文学部東洋史研究会，1985年3月），「元代における塩政」（東洋学報66－1・2・3・4，203～288頁，東洋文庫，1985年3月）。

佐藤　次高

②『イスラム世界の人びと2　農民』（富岡倍雄共編，東洋経済新報社，1984年10月，323＋11頁），③「イスラム総論」・「アラブ後期」（『アジア歴史研究入門4　内陸アジア・西アジア』，515～528頁，555～591頁，同朋舎，1984年9月），⑦「マムルーク朝 — 奴隷軍人の世界」（朝日カルチャー・センター，1984年4月3日），「イスラムの生活と文化 — 歴史の世界から —」（トラベル・アカデミー講座，国立教育会

館，1985年2月15日）。

酒井　憲二

②『寛永諸家系図伝　第七』（校訂協力，続群書類従完成会，1984年11月，264頁），『論集，空海といろは歌，弘法大師の教育下巻』（思文閣出版，1984年12月，446頁，「わが国における実語教のの盛行と終焉」を抄出再録＜377～386頁＞），③「中近世における一種の仮名遣について（上）」（語文60，112～127頁，1984年6月），「同(中)」（語文61，42～61頁，1985年2月），「東洋文庫蔵の『大鏡』残欠本について ― 付，翻刻 ―」（東洋文庫書報16，14～65頁，1985年3月），⑧「西安の一日」（ゆうりす13，6～7頁，1984年9月），「一冊の本のタイトルから」（図書館情報大学附属図書館報1，8～9頁，1985年3月）。

志茂　碩敏

②『日本國ペルシア語文献所在総目録　II』（岩見隆，関喜房，八尾師誠，井谷鋼造共編，東洋文庫（紀伊國屋書店），1985年3月，8＋332頁），④「日本の公的機関に所蔵されている『イランイスラム革命関係小冊子類』について」（東方学68，177～185頁，東方学会，1984年7月），「『日本國ペルシア語文献所在総目録』の編纂と出版」（アジア・アフリカ資料通報22－9，34～36頁，国立国会図書館，1984年12月），⑧「『材質型』と日本の西アジア研究者」（季刊東西交渉11，11～13頁，井草出版，1984年9月），「血液型と民族性を考える《能見俊賢・Andy Grahamとの座談会》」（月刊アボメイト46～57，2～4・2～5・2～4・2～3・2～5・2～4・2～5・2～5・2～5・2～5・2～5頁，血液型人間学研究所，1984年4月～1985年3月）。

斯波　義信

②『華人の台湾遷住に関する総合調査報告』（許淑貞，本田治共編，大阪大学文学部，1985年3月，48頁），③「『湘湖水利志』と『湘湖考略』― 浙江蕭山県湘湖の水利始末 ―」（『佐藤博士退官記念中国水利史論叢』，278～307頁，国書刊行会，1984年10月），「『麻渓改壩為橋始末記』について」（『西嶋定生博士還暦記念東アジア史における国家と農民』，327～348頁，山川出版社，1984年11月），『宋都杭州の都市生態」（『都市史をめぐる諸問題』大阪大学文学部共同研究論集第2輯，31～48頁，大阪大学文学部，1984年8月），「荒政の地域史 ― 漢陽軍（1213－4年）の事例 ―」（東洋学報66－1・2・3・4，289～317頁，1985年3月），④「中国における資本主義の展開と都市化」（『社会経済史学の課題と展望 ― 社会経済史学会創立50周年記念』，278～293頁，有斐閣，1984年9月），⑦「Agralian and Commercial Change in the Lower Yangtze：980－1550」（The Conference on Spatial and Temporal

Trends and Cycles in Chinese Economic History : 980－1980, 1984年8月16－23日, イタリー・ベラジオ市, 報告集録：米国カリフォルニア大学バークレイ校出版予定),「王安石 — 財政改革の旗手」(大阪大学文学部・大阪府立文化情報センター共催昭和59年度懐徳堂秋季講座, 1984年10月27日, 大阪府立文化情報センター)。

滋賀　秀三

①『清代中国の法と裁判』(創文社, 1984年12月, 401頁, 附件27頁), ③「<訳註>戸婚」(律令研究会編『訳註日本律令6：唐律疏議訳註篇2』, 205～311頁, 東京堂出版, 1984年9月), ⑤「多賀秋五郎著『中国宗譜の研究』」(法制史研究34, 330～335頁, 法制史学会, 1985年3月)。

清水　宏祐

③「スィースターンのアイヤール — Ta'rīkh-i Sīstānの記述を中心に —」(『「第三世界」の社会変動と地域研究』, 15～41頁, 東京外国語大学海外事情研究所, 1984年6月),「Irshād al-Zirā'aの背景」(オリエント27－1, 20～38頁, 日本オリエント学会, 1984年9月), ⑤「メフメット・アルタイ・キョイメン著『大セルジューク帝国史・第1巻：創設時代』」(イスラム世界23・24合併号, 119～125頁, 1985年1月),「佐藤次高著「バグダッドの任侠・無頼集団」」(法制史研究34, 377～379頁, 1985年3月)。

周藤　吉之

③「高麗朝の京邸とその諸関係 — 唐末・五代・宋の進奏院, 邸吏および銀台司との関連において —」(朝鮮学報111, 1～51頁, 朝鮮学会, 1984年4月),「高麗初期の功臣, 特に三韓功臣の創設 — 唐末・五代・宋初の功臣との関連において —」(東洋学報66－1・2・3・4, 363～395頁, 1985年3月)。

鈴木　立子

③「元朝の湖廣行省支配 — 溪洞民対策を中心に —」(東洋学報66－1・2・3・4, 133～156頁, 1985年3月), ⑥「アルカード＝オアンジュのパリ日記(二), (三)」(季刊東西交渉10, 11, 42～50, 44～52頁, 井草出版, 1984年6月, 1984年9月)。

関野　雄

【昭和54年度】③「中国における文化財の買い取り」(文化庁月報129, 9～11頁, ぎょうせい, 1979年6月),「日本語の言い回し」(月刊 ことば3－7, 20～23頁, 英潮社, 1979年7月), ⑧「灰陶壺(中国戦国時代)」(天地2－4, 20～21頁, 道友社,

1979年4月），「中国文明のふるさと 西安 — シルクロード文物展から —」（読売新聞，1979年4月3日夕刊），「秦 右卯等文字刻石ほか」（宮川寅雄ら編『西安碑林書道芸術』，234・237頁，講談社，1979年7月），「中国の古代美術とユーモア」（サンケイ新聞，1979年7月7日夕刊），「玉器（中国古代）— 色合いと造形の妙 —」（日本経済新聞，1979年8月7日朝刊），「中国」（鶴田総一郎編『世界の博物館事典』〔『世界の博物館』別巻〕，98〜103頁，講談社，1979年11月），「加彩馬丁立俑（中国唐代）— 東西交流の証人 —」（日本経済新聞，1979年12月11日朝刊），「中国の美術館 1〜6」（『週刊 朝日百科・世界の美術』91〜96，朝日新聞社，1979年12月〜1980年1月）。

【昭和55年度】③「アナのトチリを科学する」（月刊 言語9－9，2〜5頁，大修館書店，1980年9月），⑦「ものの見せ方と見え方 — 八方にらみのダルマの原理 —」（お茶の水女子大学公開講座，1980年11月1日），「中国の史跡と博物館」（東京大学教養学部美術博物館，1980年11月6日），⑧「中国の古代美術と雲」（サンケイ新聞，1980年6月13日夕刊），「頭蓋の厚さ9.7ミリ — 北京原人展から —」（読売新聞，1980年8月2日夕刊），「博物館」（平塚益徳監修・新井郁男ら編集『増補改訂 世界教育事典』，397〜398頁，ぎょうせい，1980年10月），「玉琮 — 珍しい獣面文の彫刻 —」（中日新聞，1981年3月19日夕刊），「東大文学部列品室の東亜考古学関係資料」（弥生 11，東京大学考古学研究室談話会，1981年3月）。

【昭和56年度】③「釈繳弾 — 弾弓をめぐる一考察 —」（八幡一郎編『弾談義』，125〜134頁，六興出版，1982年1月），⑤「中森義宗ら著『美術における右と左』」（中国新聞，1982年3月21日朝刊など，共同通信），⑥「文物編集委員会編『中国考古学三十年（1949〜1979）』」（監訳，平凡社，1981年10月，422頁），「陝西省博物館編『陝西省博物館』（『中国の博物館』1）」（翻訳監修，五味充子と共訳，講談社，1981年9月，223頁），「湖南省博物館編『湖南省博物館』（『中国の博物館』2）」（翻訳監修，講談社，1981年12月，235頁），「遼寧省博物館編『遼寧省博物館』（『中国の博物館』3）」（翻訳監修，五味充子と共訳，講談社，1982年3月，228頁），⑧「南京博物院展の見どころ」（日中文化交流 298，11頁，日本中国文化交流協会，1981年4月），「華東文化五千年の流れ — 南京博物院展を見て —」（東京新聞，1981年8月4日夕刊），「史学科育ての親」（『おもいで 丸山忠綱追想集』，63〜66頁，丸山忠綱先生追想集刊行会，1981年10月），『中国古代青銅器（レプリカコレクションカタログ）』（集古房，1981年12月，41頁），「定年退官の挨拶」（学園だより 20，5頁，お茶の水女子大学，1981年4月）。

【昭和57年度】⑥「南京博物院編『南京博物院』（『中国の博物館』4）」（翻訳監修，講談社，1982年6月，219頁），「中国歴史博物館編『中国歴史博物館』（『中国の博物館』5）」（翻訳監修，町田章らと共訳，講談社，1982年9月，253頁），「天津芸術博

物館編『天津芸術博物館』(『中国の博物館』6)」(翻訳監修，五味充子らと共訳，講談社，1982年12月，233頁)，「河南省博物館編『河南省博物館』(『中国の博物館』7)」(翻訳監修，町田章らと共訳，講談社，1983年3月，232頁)，⑦「故宮博物院の成立」(第55回朝日ゼミナール，1982年7月9日)，「故宮の青銅器について」(西武美術館主催「北京 故宮博物院展」特別企画，1982年7月18日)，⑧「故宮博物院展に寄せて」(墨37，86～89頁，芸術新聞社，1982年7月)，「明・清の豪華な宮廷生活を再現」(新美術新聞302，1982年7月1日)。

【昭和58年度】③「中国における文物の伝世」(法政史学35，1～13頁，法政大学史学会，1983年4月)，⑥「上海博物館編『上海博物館』(『中国の博物館』8)」(翻訳監修，町田章らと共訳，講談社，1983年6月，238頁)，⑦「中国考古学と洛陽」(岡山市立オリエント美術館，1983年3月19日)，「我が青春と中国の都城」「橿原考古学研究所付属博物館，1983年5月5日)，「中国の考古学と文献史学 —古代の科学技術をめぐって—」(朝日カルチャーセンター，1983年10月7日・14日)，「東西の人物画における視線の処理」(第33回東方学会全国会員総会，1983年11月7日，要旨：東方学67，107頁)，⑧「鎮墓陶俑(中国北魏時代) — 型破り 怪物の異様さ —」(日本経済新聞，1983年10月22日朝刊)，「真の交流を求めて — 考古学の場合 —」(交流簡報35，日中人文社会科学交流協会，1983年11月)，「中国内蒙古 北方騎馬民族文物展に寄せて」(日中文化交流358，4頁，日本中国文化交流協会，1984年1月)，「不滅の金字塔を称える」(『梅原末治考古図録集』推薦文，同朋舎出版，1984年2月)。

【昭和59年度】③「華表考」(東洋学報66－1～4，397～421頁，東洋文庫，1985年3月)，⑦「中国における帝王陵の変遷」(日本考古学協会第50回総会，1984年4月29日，要旨：公開講演資料1～3頁)，⑧「歴代の生活史を実感 —『中国陶俑の美』展の列品を見て —」(朝日新聞 名古屋版，1984年10月27日夕刊)，「思い出のなかの杉原荘介」(大塚初重編『考古学者・杉原荘介 — 人と学問 —』，132～137頁，吉川弘文館，1984年12月)，「宮川先生をしのぶ」(日中文化交流380，22頁，日本中国文化交流協会，1985年2月)，「日中学術交流の問題点と展望」(小林義雄・斎藤秋男らと座談，交流簡報45，2～7頁，日中人文社会科学交流協会，1984年9月)。

土肥　義和

②「Tun-huang and Turfan Documents concerning Social and Economic History Ⅱ Census Registrs (B)Plates」(Co-edited by Tatsuro YAMAMOTO and Yoshikazu DOHI，The TOYO BUNKO，1984，221頁)，③「唐天宝年代敦煌県受田簿断簡考 — 田土の還受問題に関連して —」(『坂本太郎博士頌寿記念日本史学論集上巻』，303～341頁，吉川弘文館，1983年12月)，「唐代均田制下における敦煌地方の田土給授について — 大英図書館蔵「天宝載間敦煌県受田簿」

を中心に ― 」(〔科研費〕唐代史研究会編『中国律令制の展開とその国家・社会との関係 ― 周辺地域の場合を含めて ― 』(唐代史研究報告Ⅴ集), 123～136頁, 刀水書房, 1984年3月), ⑦「敦煌文書の世界」(法政大学史学会例会講演, 1983年6月4日, 要旨:法政史学36, 123・124頁, 1984年3月), 「敦煌文書と莫高窟千仏洞」(東洋文庫秋期東洋学講座〔東洋文庫新築落成記念講演会〕, 1983年11月1日), ⑧「第二刷にあたって」(嶋崎昌著『隋唐時代の東トルキスターン研究』(第二刷後記), 584・585頁, 東京大学出版会, 1983年6月)。

鳥海　　靖

②『国史大辞典 第5巻』(共編, 吉川弘文館, 1985年2月, 1018頁), ⑤「<史料紹介>対華二十一箇条要求」(歴史と地理355, 20～26頁, 山川出版社, 1985年3月), ⑦「明治の政治指導者の立憲政治観 ― 大久保利通・大隈重信・伊藤博文を中心に ― 」(日本文化会議, 東西比較文化研究国家意識セミナー, 1984年10月29日), ⑧「今月の日本史」(歴史読本29－12, 30－1, 246～247頁, 244～245頁, 新人物往来社, 1984年8月, 1985年1月), 「インドで感じた事」(文化会議184, 20～32頁, 日本文化会議, 1984年10月), 「デリー日記抄」(教養学部報299, 東京大学教養学部, 1984年11月6日)。

中嶋　　敏

③「荘季裕, 雞肋編 ― その構成排列について ― 」(東洋学報66－1・2・3・4, 423～433頁, 東洋文庫, 1985年3月)。

林　　　望

③「『わらひ草のさろし』の研究(5)」(ビブリア82, 27～42頁, 天理図書館, 1984年6月), 「大英図書館の善本一, 二, そのほか」(汲古6, 20～26頁, 汲古書院, 1984年11月)。

原　　　實

③「A Note on the Pāśupata concept of purity (śauca)」(*Svasti Śrī*, Dr. B. Ch. Chhabra Felicitation Volume, Agam Kala Prakashan, Delhi, 1984, pp.227－244), 「Right in India and Left in China? On I-ching's translation of the Sudhanakumārāvadāna」(*Amṛtadhārā*, Prof. R. N. Dandekar Felicitation Volume, Ajanta Publications, Delhi, 1984, pp.159－166), 「古典インドの愛」(東京大学公開講座・愛と人生, 45～79頁, 東大出版会, 1984年12月), 「丘井の喩」(東洋学報66－1・2・3・4, 580～561頁, 1985年3月), ⑦

「Note on the Pāśupata concept of ahiṃsā」(16 October 1984, at the 6th World Sanskrit Conference at Philadelphia, U. S. A.), 「A Note on the Sadhīna-jātaka」(23 October 1984, at Department of Sanskrit, Harvard University, Cambridge, Mass. U. S. A.), 「古典インドの愛」(第40回東京大学公開講座「愛と人生」, 1984年5月12日), ⑧「解説」(上村勝彦訳『カウティリヤ実利論』下, 439～448頁, 岩波文庫, 1984年11月), 「Obituary, *John Brough* (31. 8. 1917－9. 1. 1984)」(*Journal of Indian Philosophy*, vol. 13, 1985 (Dordrecht, Holland) pp.103－106), 「<訃報>ブラフ教授(John Brough, 1917－1984)」(印度学仏教学研究66, 715～719頁, 日本印度学仏教学会, 1985年3月)。

坂野　正高

①『中国近代化と馬建忠』(東京大学出版会, 1985年2月, 204頁)。

本庄比佐子

③「福建事変時における「反日反蔣的初歩協定」について」(東洋学報66－1･2･3･4, 435～454頁, 1985年3月), ⑧「〔第1部〕ソビエト革命時期(1928－35年)」「〔第2部〕ソビエト革命期」(『中国文中国近・現代史研究文献解題(1978－83年)』・アジア経済研究所図書資料部編, 13～19頁・79～81頁, アジア経済研究所, 1985年2月)。

本田　實信

①『イスラム世界の発展』(講談社, 1985年3月, 277頁), ②「イラン」(島田虔次等共編『アジア歴史研究入門4』, 同朋舎, 1984年9月, 593～622頁), 「東西交通」(島田虔次等共編『アジア歴史研究入門5』, 同朋舎, 1984年12月, 855～618頁)。

森岡　　康

③「朝鮮捕虜の價格について」(東洋学報66－1･2･3･4, 455～480頁, 1985年3月)。

山崎　元一

③「仏滅年代について」(東洋学術研究23－1, 8～23頁, 東洋哲学研究所, 1984年5月), 「古代インドの都市とその生活 ― パーリ語仏典を史料として ― 」(国学院雑誌85－5, 1～19頁, 国学院大学, 1984年5月), 「ヒンドゥー法典のシュードラ規定 ― 義務と儀礼的地位について ― 」(東洋学報66－1･2･3･4, 515～537頁, 1985年3月), ⑤「辛島昇著『南インドの歴史と社会 ― 刻文による研究, 西暦850年～1800年 ― 』」(東方学68, 121～126頁, 東方学会, 1984年7月), ⑦「古代イ

ンドのカースト制度 ― ヴァルナ制度と不可触民 ― 」（東洋文庫春期東洋学講座，1984年6月9日，要旨：東洋文庫書報16，83・84頁，1985年3月），「インド学の立場から ― 古代インドにおける差別の構造 ― 」（歴史人類学会シンポジウム「歴史における支配と差別」，1984年11月24日，要旨：史境10，13～18頁），⑧「社会の構造 ― カースト社会に住む人びと ― 」（辛島昇編『インド世界の歴史像』民族の世界史7，63～94頁，山川出版社，1985年1月），「バラモンの誇りと現実」（歴史と地理351，23・24頁，山川出版社，1984年11月）。

山根　幸夫

②『戦中戦後に青春を生きて ― 東大東洋史同期生の記録』（神田信夫共編，山川出版社，233頁，1984年4月），③「近年来明代社会経済史的研究　上・下」（唐羽訳，世界華学季刊5－1，5－2，59～74頁，47～58頁，1984年3月，6月），「清代山東の市集と紳士層 ― 曲阜息陬義集を中心として」（東洋学報66－1・2・3・4，539～560頁，1985年3月），⑤「武新立編『明清稀見史籍叙録』」（汲古6，27～29頁，古典研究会，1984年11月），「佐藤三郎著『近代日中交渉史の研究』」（国士館大学人文学会紀要17，146～150頁，国士館大学人文学会，1985年1月），⑦「江戸時代日本に輸入された明代地志について」（京都大学人文科学研究所明清史研究班例会，1985年 2月5日），「日本の漢籍図書館について」（中国社会科学院歴史研究所，1984年9月3日午前），「日本における明代紳士の研究」（中国社会科学院歴史研究所明史研究室，1984年9月3日午後），「日本における明清紳士の研究」（中国社会科学院経済研究所，1984年9月4日），「日本における明清紳士の研究」（上海社会科学院歴史研究所，1984年9月13日），「日本における明史研究の現状」（国立台湾大学歴史系，1985年3月30日），⑧「休学より復学まで」（『戦中戦後に青春を生きて ― 東大東洋史同期生の記録』，207～224頁，山川出版社，1984年4月），「韓国明清史関係論文要目（1983）」（明代史研究13，52頁，1985年3月），「明代経済史討論会の開催」（明代史研究13，61－65頁，1985年3月）。

和田　博徳

⑧「清代の封贈誥命」（塾22－5，99・100頁，慶應義塾大学，1984年11月），『元明清期における国家支配と民衆像の再検討 ― シンポジウム参加発言 ― 』（九州大学文学部東洋史研究室，1984年10月）。

渡辺　　修

③「張玄錫自刎事件 ― 清初満・漢関係の一縮図 ― 」（盈虚集〔立教大学東洋史同学会会誌〕2，16～23頁，1985年3月），⑦「清初の遼人（漢軍）とその任用 ― とくに

順治年間（1644－60）を中心に ―」（東洋文庫談話会，1984年10月3日，要旨：東洋文庫書報16，94～96頁，1985年3月），「孫元化について」（立教大学史学会大会，1984年12月1日）。

Ⅳ　業務報告

1.　総務報告

A.　財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

理事会

第２４３回　開催日　昭和５９年６月５日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎
　　　　　坂本　太郎，護　雅夫，山本　達郎，播磨　俊雄
　委任状　大槻　文平，高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬，松本　重治

第２４４回　開催日　昭和５９年６月５日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎
　　　　　坂本　太郎，護　雅夫，山本　達郎，播磨　俊雄
　委任状　大槻　文平，高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬，松本　重治

第２４５回　開催日　昭和５９年９月１８日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎
　　　　　坂本　太郎，護　雅夫，山本　達郎，奥野　高，播磨　俊雄
　委任状　高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬，松本　重治

第２４６回　開催日　昭和５９年９月１８日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，小笠原光雄，河野　六郎
　　　　　坂本　太郎，護　雅夫，山本　達郎，奥野　高，播磨　俊雄
　委任状　高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬，松本　重治

第２４７回　開催日　昭和５９年１２月１１日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，小笠原光雄，護　雅夫
　　　　　山本　達郎，奥野　高，播磨　俊雄
　委任状　河野　六郎，坂本　太郎，高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬
　　　　　中村　俊男，松本　重治

第２４８回　開催日　昭和５９年１２月１１日（火曜日）
　出席者　榎　一雄，有光　次郎，市古　宙三，小笠原光雄，護　雅夫
　　　　　山本　達郎，奥野　高，播磨　俊雄
　委任状　河野　六郎，坂本　太郎，高垣寅次郎，田中　正俊，徳川　宗敬
　　　　　中村　俊男，松本　重治

第２４９回　開催日　昭和６０年２月２６日（火曜日）
出席者　榎　一雄，有光　次郎，小笠原光雄，河野　六郎，護　雅夫
山本　達郎，播磨　俊雄
委任状　市古　宙三，坂本　太郎，高垣寅次郎，田中　正俊，中村　俊男
林　健太郎，松本　重治，奥野　高

第２５０回　開催日　昭和６０年２月２６日（火曜日）
出席者　榎　一雄，有光　次郎，小笠原光雄，河野　六郎，護　雅夫
山本　達郎，播磨　俊雄
委任状　市古　宙三，坂本　太郎，高垣寅次郎，田中　正俊，中村　俊男
林　健太郎，松本　重治，奥野　高

評議員会

第１０９回　開催日　昭和５９年６月５日（火曜日）
出席者　亀井　孝，神田　信夫，関野　雄，中嶋　敏，前田　充明
委任状　石川　忠雄，岡野　澄，沢田　敏男，田部文一郎，中田　乙一
中山　素平，西原　春夫，長谷川周重，林　健太郎，日比野丈夫
平野　龍一

第１１０回　開催日　昭和５９年９月１８日（火曜日）
出席者　岡野　澄，亀井　孝，神田　信夫，関野　雄，林　健太郎
前田　充明
委任状　石川　忠雄，沢田　敏男，田部文一郎，中嶋　敏，中田　乙一
中山　素平，西原　春夫，長谷川周重，日比野丈夫，平野　龍一

第１１１回　開催日　昭和５９年１２月１１日（火曜日）
出席者　有光　次郎，榎　一雄，小笠原光雄，岡野　澄，亀井　孝
神田　信夫，関野　雄，中嶋　敏，林　健太郎，日比野丈夫
前田　充明，山本　達郎
委任状　石川　忠雄，河野　六郎，沢田　敏男，田部文一郎，高垣寅次郎
徳川　宗敬，中田　乙一，中山　素平，西原　春夫，長谷川周重
平野　龍一，松本　重治

第１１２回　開催日　昭和５９年１２月１１日（火曜日）
出席者　岡野　澄，亀井　孝，神田　信夫，関野　雄，中嶋　敏
日比野丈夫，前田　充明
委任状　石川　忠雄，沢田　敏男，田部文一郎，中田　乙一，中山　素平
西原　春夫，長谷川周重，平野　龍一

第１１３回　開催日　昭和６０年２月２６日（火曜日）
出席者　神田　信夫，関野　　雄，中嶋　　敏，前田　充明
委任状　石川　忠雄，岡野　　澄，亀井　　孝，沢田　敏男，田部文一郎
中田　乙一，中山　素平，西原　春夫，長谷川周重，日比野丈夫
平野　龍一

B．東洋学連絡委員会の開催

前期　開催日　昭和５９年５月２９日（火曜日）
出席者　榎　　一雄，市古　宙三，岩生　成一，中嶋　　敏，宮崎　市定
議　題　1．昭和５８年度財団法人東洋文庫事業報告について
2．昭和５９年度財団法人東洋文庫事業計画について

後期　開催日　昭和５９年１１月２０日（火曜日）
出席者　榎　　一雄，市古　宙三，岩生　成一，中嶋　　敏，日比野丈夫
福井　康順，本田　實信，宮崎　市定
議　題　1．昭和５９年度財団法人東洋文庫事業中間報告について
2．昭和６０年度財団法人東洋文庫事業計画について

2．人事報告

A．役員異動

年　月　日	役職名	氏　　名	区　分	備　考
59．6．5	監　事	奥野　　高	就　任	
59.12.11	理　事	徳川宗敬	退　任	
〃	〃	林　　健太郎	就　任	評議員より転任

B. 職員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
59. 4. 1	研究員（兼任）	石塚晴通	就職	
〃	〃	臼井佐知子	〃	
〃	〃	八尾師誠	〃	
〃	研究員（奨励）	今沢紀子	〃	
〃	〃	大井剛	〃	
60. 3.31	研究員（専任）	鈴木立子	退職	
〃	研究員（奨励）	大井剛	〃	
〃	〃	渡辺修	〃	

C. 受賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
59.11. 3	東洋学連絡委員会委員	貝塚茂樹	受章	文化勲章
〃	研究員（兼任）	河鰭源治	叙勲	勲四等瑞宝章

V 役職員名簿

昭和６０年３月３１日現在の財団法人東洋文庫の役職員は，以下のとおりである。

1. 役　員

役職名	氏名	現職
理事長代理 専務理事	榎　一雄	財団法人東洋文庫研究部部長 財団法人東洋文庫図書部部長 東京大学名誉教授
理事	有光次郎	日本芸術院院長 東京家政学院大学学長
〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	大槻文平	三菱鉱業セメント株式会社取締役会長 社団法人日本経営者団体連盟会長
〃	小笠原光雄	株式会社三菱銀行相談役
〃	河野六郎	東京教育大学名誉教授
〃	坂本太郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授 国学院大学名誉教授
〃	高垣寅次郎	日本学士院会員 一橋大学名誉教授 成城学園名誉教授
〃	田中正俊	信州大学教授
〃	中村俊男	株式会社三菱銀行代表取締役会長 社団法人経済団体連合会副会長
〃	林　健太郎	参議院議員
〃	松本重治	財団法人国際文化会館理事長
〃	護　雅夫	日本大学教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター所長 東京大学名誉教授

現職名	氏名	現職
理事	山本達郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監事	奥野　高	財団法人三菱財団常務理事
〃	播磨俊雄	三菱金曜会事務局局長
評議員	石川忠雄	慶応義塾塾長 慶応義塾大学学長
	岡野　澄	全国国立高等専門学校協会会長 東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター運営委員
	亀井　孝	一橋大学名誉教授
	神田信夫	明治大学教授
	沢田敏男	京都大学学長
	関野　雄	文化財保護審議会専門委員 東京大学名誉教授
	田部文一郎	三菱商事株式会社取締役会長
	中嶋　敏	東京教育大学名誉教授
	中田乙一	三菱地所株式会社取締役会長
	中山素平	株式会社日本興業銀行特別顧問
	西原春夫	早稲田大学総長
	長谷川周重	住友化学工業株式会社会長
	日比野丈夫	大手前女子大学学長 京都大学名誉教授
	平野龍一	東京大学総長
	前田充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター顧問

2. 東洋学連絡委員会委員

役職名	氏名	現職
委員長	榎 一雄	（前掲出）
常任委員	山本達郎	〃
委員	市古宙三	〃
〃	岩生成一	日本学士院会員
〃	江上波夫	古代オリエント博物館館長 東京大学名誉教授
〃	小川環樹	京都産業大学教授 京都大学名誉教授
〃	貝塚茂樹	京都大学名誉教授
〃	佐藤 長	仏教大学教授 京都大学名誉教授
〃	長尾雅人	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	中嶋 敏	（前掲出）
〃	日比野丈夫	〃
〃	福井康順	早稲田大学名誉教授
〃	本田實信	京都大学教授
〃	宮崎市定	京都大学名誉教授

3. 名誉研究員

氏　名	現　職
W. T. デ・バリイ	コロンビア大学教授
E. O. ライシャワー	ハーヴァード大学教授，元駐日アメリカ大使
A. フォン・ガベイン	前ハンブルグ大学教授
J. ヂェルネ	第7パリ大学教授，フランス国立高等研究院研究指導員
H. フランケ	ミュンヘン大学教授
L. ペテック	ローマ大学教授

4. 職　員

部名	職名	氏名	現職
研究部	部長	榎　一雄	（前掲出）
	部長代理	護　雅夫	〃
	部長補佐	田中正俊	〃
	研究顧問	岩村　忍	京都大学名誉教授
	〃	村田治郎	京都大学名誉教授
	研究員（兼任）	荒　松雄	津田塾大学教授
	〃	池田　温	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	石塚晴通	北海道大学助教授
	〃	市古宙三	（前掲出）
	〃	岩生成一	〃

部　名	職　　名	氏　　名	現　　職
研究部	研究員（兼任）	宇都木　　章	青山学院大学教授
	〃	臼井　佐知子	国学院大学講師
	〃	梅村　　担	立正大学専任講師
	〃	海野　一　隆	大阪大学教授
	〃	越智　重　明	九州大学教授
	〃	岡田　英　弘	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	亀井　　孝	（前掲出）
	〃	川崎　信　定	筑波大学助教授
	〃	河鰭　源　治	愛知大学教授
	〃	神田　信　夫	（前掲出）
	〃	菊池　英　夫	北海道大学教授
	〃	北村　　甫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
	〃	草野　　靖	熊本大学教授
	〃	河野　六　郎	（前掲出）
	〃	後藤　　明	山形大学助教授
	〃	後藤　均　平	立教大学教授
	〃	佐伯　　富	京都大学名誉教授
	〃	佐藤　次　高	東京大学助教授
	〃	酒井　憲　二	図書館情報大学教授
	〃	斯波　義　信	大阪大学教授
	〃	滋賀　秀　三	千葉大学教授
	〃	清水　宏　祐	東京外国語大学講師
	〃	周藤　吉　之	元東京大学教授
	〃	末松　保　和	学習院大学名誉教授
	〃	関野　　雄	東京大学名誉教授
	〃	田川　孝　三	日本大学講師
	〃	田中　時　彦	東海大学教授

部名	職名	氏名	現職
研究部	研究員（兼任）	田中正俊	（前掲出）
	〃	竺沙雅章	京都大学教授
	〃	鶴見尚弘	横浜国立大学教授
	〃	土肥義和	国学院大学教授
	〃	鳥海　靖	東京大学教授
	〃	中嶋　敏	（前掲出）
	〃	永田雄三	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助教授
	〃	八尾師　誠	東京外国語大学専任講師
	〃	花田宇秋	明治学院大学助教授
	〃	林　望	東横学園女子短期大学助教授
	〃	原　實	東京大学教授
	〃	坂野正高	国際基督教大学教授
	〃	藤枝　晃	京都大学名誉教授
	〃	本田實信	（前掲出）
	〃	松濤誠達	大正大学助教授
	〃	松村　潤	日本大学教授
	〃	三根谷　徹	国学院大学教授
	〃	護　雅夫	（前掲出）
	〃	森岡　康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	山口瑞鳳	東京大学教授
	〃	山崎元一	国学院大学教授
	〃	山根幸夫	東京女子大学教授
	〃	山本達郎	（前掲出）
	〃	渡辺紘良	独協医科大学助教授
	〃	和田博徳	慶応義塾大学教授
	研究員（専任）	松本　明	

部　名	職　名	氏　　　　　　名
図書部	部　長	榎　一雄
	主　査	渡辺兼庸*
	副主査	池田直人,* 小山　勲,* 志茂碩敏*
	〃	竹之内信子,* 児野寿満子, 秩父良子*
	〃	広瀬洋子*
	係　員	浅野千秋, 小林輝男*
	〃	西薗一男
総務部	部　長	早船艶雄
	課　長	平野　豊
	係　員	稲村　優, 金子祐子, 光田憲雄
	〃	谷治嘉紀, 吉田男佐武

（＊印は国立国会図書館支部東洋文庫職員）

5. 臨 時 職 員

部　名	氏　　　　　　名
研究部	安藤　充, 石川　重雄, 石川むつみ, 石浜裕美子, 岩見　隆 折居　貴子, 加藤　治子, 兼田信一郎, 金沢　篤, 木村　涼子 小山　義則, 権太　澄子, 関　喜房, 高橋　明, 谷沢　淳三 蓮沼　龍子, 福田　洋一, 水野　善文
図書部	河上　大作, 私市　正年, 佐藤　洋一, 清水　一枝, 清水　敏江 鈴木　修, 高田　幸男, 高山　博, 東長　靖, 野村　徹 三浦　徹, 三宅　克広
総務部	岡本　美空

（昭和59年４月１日～昭和60年３月31日間に在籍した者）

Ⅵ　財団法人東洋文庫附置
ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

1. 調　査　研　究　事　業

1－A. 長期調査研究「アジアの文化価値とその現代的条件への適応」

【年　度】　10ヵ年計画最終年度

【概　要】　本計画は，センターがユネスコ本部に提案し，1974（昭和49）年の第18回ユネスコ総会で採択された研究計画である。この計画実施のために「アジア地域文化研究機関代表者会議」が，1976（昭和51）年3月，センターが受入機関となって東京で開催された。この会議の決議に基いて，各国で調査研究が進められているが，センターでは本年度，次の四つの研究テーマによる調査研究を実施した。

1－A－1.　「現代アジア諸国におけるマス・コミュニケーションと大衆文化」（5年計画延長年度）

【概　要】　アジア諸国において，各国の文化的価値観の形成に重要な役割をもつラジオ・テレビ・新聞・雑誌などのマス・コミュニケーションが，実際に大衆文化にいかなる要素を送りこんでいるかを明らかにすることを目的とし，主として社会科学的研究をおこなう。

【専門委員】　辻村　明（委員長），伊藤慎一，稲増龍夫，岩男寿美子，岡部慶三
佐田一彦

【事業内容】

専門委員会

4月24日：質問票の点検
6月7日：質問票選択肢の作成
6月13日：クアラルンプール予備会議報告・質問票最終点検
9月27日：調査票の集計・整理の方法について
10月12日：調査データ処理の方法・報告書の作成について
11月2日：調査データ表作成

クアラルンプール予備会議

〔主催〕　ユネスコ東アジア文化研究センター

〔期日〕　昭和59年5月24日より同月26日まで3日間

〔会場〕　クアラルンプール，プラザホテル　Plaza Hotel, Jalan Raja Laut, Kuala Lumpur, Malaysia

〔議事〕

1. 開　会
2. 議題の採択
3. 調査実施計画について検討
4. 質問票の検討
5. 調査実施方法について確認
6. 閉　会

〔参加者〕

シャムス・スギト；インドネシア，マス・コミュニケーション調査開発研究所，プログラムアドバイザー　Mr. Syamsoe Soegito, Program Adviser, Institute of Mass Communication Research and Development, Jakarta, Indonesia

コー・ヨーク・リム：マレーシア，マレーシアサイエンス大学人文学部講師　Ms. Khor Yoke Lim, Lecturer, Mass Communication Programme, School of Humanities, Universiti Sains Malaysia, Pulau Pinang, Malaysia

ブムロンスク・シーハ・ウンパイ：タイ，チュラロンコン大学コミュニケーション学部主任教授　Prof. Bumrongsook Siha-Umphai, Senior Professor, Faculty of Communication Arts, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand

辻村　明：日本，東京大学文学部教授

〔オブザーバー〕

S.M.アリ：ユネスコ，コミュニケーションアドバイザー　Mr. S.M. Ali, Regional Communication Adviser for Asia and the Pacific, UNESCO

イワマ・ユキコ：ユネスコ，専門員補　Ms. Yukiko Iwama, Associate Expert for Regional Communication, Asia and the Pacific, UNESCO

ブラジェシュ・バーティア：アジア太平洋放送開発研究所地域訓練官　Mr. Brajesh Bhatia, Regional Training Coordinator, Asia-Pacific Institute for Broadcasting Development, Kuala Lumpur

ハロルド・フォン・ゴットベルク：アジアマス・コミュニケーション研究及び情報センター事務次長　Mr. Harald von Gottberg, Deputy Secretary-General, Asian Mass Communication Research and Information Centre, Singapore

イトウ・ロク：アジア太平洋放送連盟事務局長　Mr. Roku Ito, Secretary-General, Asia-Pacific Broadcasting Union, Kuala Lumpur

サガラ・テツオ：アジア太平洋放送連盟プログラムサービス主任　Mr. Tetsuo Sagara, Senior Officer of Programme Services, Asia-Pacific Broadcasting Union,

Kuala Lumpur

〔事務局〕

生田　滋：当センター調査資料室長

国際的協同調査「東南アジア諸国においてマス・コミュニケーションが大衆の文化に与える影響に関する国際的協同調査 International Joint Field Survey of the Impact of Radio and Television on Cultures of Selected Metropolitan Centres in Southeast Asian Countries －1984－ 」

〔調査責任者〕

ハルソノ・スワルディ：インドネシア，マス・コミュニケーション調査開発研究所所長

Dr. Harsono Suwardi, Director, Institute of Mass Communication Research and Development, Jakarta, Indonesia

コー・ヨーク・リム：マレーシア，前出

ブムロンスク・シーハ・ウンパイ：タイ，前出

〔調査時期〕 1984年11－12月

〔調査地〕 ジャカルタ（インドネシア），クアラルンプール（マレーシア），バンコック（タイ）

〔調査数等〕 各国600サンプル及び有識者の意見調査10サンプル

1－A－2. 「アジア諸国における企業経営の社会的性格」（5年計画第4年度）

【概　要】 変容を遂げつつあるアジア諸国において，都市を中心として展開する人為的な集団の一つである企業をとりあげ，そこに反映されている伝統的な文化価値を分析・整理することによって，諸地域の現代的特色を追究しようとするものである。

【専門委員】 中川敬一郎（委員長），加納啓良，小池賢治，末広　昭，服部民夫
吉原久仁夫

【事業内容】

専門委員会

11月14日：吉原久仁夫「アセアン諸国の現地人企業家」

1月16日：服部民夫「韓国財閥の所有と形態」

3月23日：「昭和60年度事業計画及び現地調査について」

1－A－3. 「アジア諸国における建築と都市計画」（5年計画第2年度）

【概　要】 現代のアジア諸国では，ヨーロッパ様式の建築が多くとりいれられているが，その受容の過程を，アジアの伝統的建築の構造・機能の観点も含み考察し，合わせて都市化の問題も検討することを目的とし，都市工学・人文・社会科学の領域にわたる学際的研究を

行う。

【専門委員】　西川幸治（委員長），飯塚キヨ，梅原　郁，応地利明，太田勝敏，野口英雄　斯波義信

【事業内容】

専門委員会

4月27日：野口英雄「ジャカルタを中心として ― 東南アジアの都市と建築」

6月29日：飯塚キヨ「インドにおける都市計画の展開 ― 古代から現代まで」

2月27日：梅原　郁「中国城郭の歴史」

3月25日：応地利明「アジア都市からみた日本都市の特性 ― 宗教施設の配置を中心にして」

1－A－4.「現代アジア諸国における地方都市とその文化」（3年計画初年度）

【概　要】　現代アジア諸国では伝統的文化と西欧近代文化の接触が，地方都市で顕著にみられる。文化的な国民統合が，多民族国家のアジア諸国で，どのような形で形成されていくのかを，これらの地方都市を人文・社会学的に観察・追究することによって解明する。

【専門委員】　内堀基光（委員長），大木　昌，梶原景昭，田村克己，宮坂敬造，山下晋司

【事業内容】

専門委員会

4月2日：内堀基光・山下晋司「インドネシアの地方都市 ― バンジェルマシンとウジュンパンダン」

5月10日：生田　滋「東南アジア前近代の都市」

6月30日：宮坂敬造「東南アジア地方都市文化とコミュニケーション研究の視点」

8月14日：梶原景昭「マーケットと地方都市 ― 人類学的視点から」

11月16日：山下晋司「ウジュンパンダンのトラジャ人 ― 東南アジア地方都市研究へ向けて」

3月11日：内堀基光「バンジェルマシンのパサール ― 分析の視点について」
宮坂敬造「フィリピン，パナイ島ロハス報告」

1－B．一般調査研究

1－B－1.　「東アジア文化研究」

【概　要】　東アジア文化の形成に欠くことのできない要素としての「青銅器文化」と「稲作文化」に注目し，資料の収集・整理と共に調査研究を進める。

1－B－1－a. 「中国青銅器文化研究の現状調査」（4年計画最終年度）

【事業内容】

ソ連領中央アジアの青銅器時代に関する著書・論文のリストアップを，東洋文庫所蔵本について行った。目録作成者：高浜　秀

1－B－1－b. 「平城京の歴史」（2年計画初年度）

【概　要】 本プロジェクトはユネスコの実施している調査研究「アジアの古代都市の研究」の一部をなし，日本の古代都市として平城京を中心とした飛鳥，奈良地域をとりあげ，その歴史および遺物，遺跡の保存に関する報告書を作成する。

1－B－2. 「日本における東洋学研究の現状と問題点　1973－83」（4年計画第2年度）

【概　要】 昭和48年から58年までに発表された東洋学関係の研究業績を部門別に調査し，その現状を記述するとともに，問題点を指摘した報告書を作成することを目的とする。本プロジェクトは昭和47−50年度の調査を継続するものである。

【事業内容】

専門家会議

11月12日：「日本の部の項目について」

12月5日：「日本の部の執筆者選定」

1－C. 特別調査研究「現代アジアの社会的，文化的環境の現状に関する基礎的調査」（7年計画第6年度）

【概　要】 この特別調査研究は，アジア諸国の文化・社会について実験的，かつ総合的な方法によって，アジア地域が共通にもっている特質を研究し，アジア地域の実情の把握につとめようとするものである。

1－C－1. 「アジア諸国におけるエリートに関する社会科学的総合調査」

【事業内容】

専門家会議

6月16日：広瀬久和「東南アジア法への一視点」

1－C－2. 「アジア諸国における大衆文化 ― 特に口碑伝承の調査」

【事業内容】

専門家会議

3月9日：大林太良「カレワラシンポジウムに出席して」

2. 学術交流及び普及，ドキュメンテーション活動

2―A. 学術交流

2－A－1. 外国人研究者の招聘

クントウィジョヨ：インドネシア，ガジャマダ大学文学部歴史学科講師　Dr. Kuntowijoyo, Lecturer, Department of History, Faculty of Letters, Gadjah Mada University, Yogyakarta, Indonesia

招聘期間：1月10日－1月24日

2－A－2. 研究会の開催

(1) 「ケーレシ・チョーマ・シャンドル生誕二百年記念講演会」（ハンガリー人民共和国大使館・財団法人東洋文庫・財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センター共催）（4月17日）

〔発表者及び報告タイトル〕

山口瑞鳳「ラマ教の名称をめぐって」

一島正真「チョーマ菩薩像と大正大学」

ニチヤン・リンポチエ　"My General Impressions on Kőrösi Csoma"

高崎直道「チョーマ・デ・ケレスのシンポジュームについて」

(2) 孫文良：中国，遼寧大学副教授：「明清研究の現状と瀋陽檔案の状況」（6月23日）

2－A－3. 研究者の海外派遣および職員の海外出張

辻村　明：5月23日－5月27日，上記1－A－1.参照

生田　滋：5月20日－5月28日，上記1－A－1.参照

2－A－4. 外国人研究者，各種専門家に対する便宜供与

今年度，上記の外国人研究者（2－A－1.2.）以外でセンターを訪れ，センターが情報等の便宜供与をした外国人研究者は以下のとおりである。

Dr. Keith Weller Taylor	Senior Lecturer, History Department, National University of Singapore

Dr. Gina Lee Barnes	Assistant Lecturer, Department of Archaeology, Cambridge University, Cambridge
Dr. Ch'en Ching-ho	Professor, Languages and Culture Research Centre, Faculty of Education, Soka University, Tokyo
Dr. Gwee Yee Hean	Chairman, South Seas Society, Singapore
Dr. Ismail Hussein	Professor of Malay Studies, University of Malaya, Kuala Lumpur
Dr. Harsono Suwardi	Director, Institute of Mass Communication Research and Development, Jakarta
Dr. Geoffrey Parker	Professor of Early Modern History, University of St. Andrews, St. Andrews, Scotland
Mrs. Cathy Spagnoli	Storyteller for Washington State Arts Commission and Washington Commission for Humanities, Seattle
Mr. Dashdavaagiin Amgalan	Attaché, Embassy of the Mongolian People's Republic, Tokyo
Prof. Mattani Rutnin	Professor, Faculty of Liberal Arts, Thammasat University, Bangkok
Mr. Karol Kutka	Department of Oriental Studies, Slovak Academy of Sciences, Bratislava
Mr. Huang Fu-Ch'ing	Research Fellow, Institute of Modern History, Academia Sinica, Taipei
Mr. Phil S. Yang	Graduate Student in Chinese History, University of California, Los Angeles
Mr. Chan Shing-Cheong	Lecturer, Department of Chinese Language and Literature, The Chinese University of Hong Kong
Dr. David Anthony Brading	Director, Centre of Latin American Studies, Cambridge University, Cambridge
Dr. Salomon Lerner Febres	Dean, Department of Humanities, Catholic University of Peru, Lima

Dr. Celia Wu Brading	Centre of Latin American Studies, Cambridge University, Cambridge
Ms. Plubplung Moolsilpa	Assistant Professor of History, Srinakarinwirot University, Bangkok

2－B．文献目録等の作成

2－B－1.　「日本における中央アジア研究文献目録」（5年計画延長第2年度）

日本人による中央アジア関係の研究文献目録の編集にあたり，基礎カードの作成を継続した。

2－B－2.　「日本におけるアジア（含日本）研究者一覧」の編集

刊行中の「日本における東洋学の回顧と展望　1963－72」の「アジアの部」シリーズ完了に伴い，人名索引を刊行（3－E. 参照）。ひき続き「日本の部」の編集をすすめた。

2－C．資料の調査・収集および整理

本事業は，アジア諸国においてアジア諸言語によって書かれたアジアの社会・文化・歴史に関する学術書・学術雑誌等の刊行物の出版状況を調査して情報を収集するほか，今後のアジア研究に必要な書籍・定期刊行物・文献などを収集し整理することを目的としている。ここ数年来，とくに世界の注目の的となっている中東の研究に関する，アラビア語・トルコ語・ペルシア語文献の調査・収集を進めてきている。

本年度は，収集された図書の整理を行った。

2－D．語学講習会の開催

ベンガル語講習会

期　間：昭和59年7月23日（月）～8月31日（金）　土・日曜を除く毎日　午前9時－12時

会　場：電通共済生協会館（豊島区駒込1－10－4）

講　師：奈良　毅，カラビ・ムカルジー　Miss Karabi Mukherjee,　シウリ・ダスグプト　Mrs. Siuli Dasgupta

助　手：大西正幸
修了者：28名

2－E．図書の寄贈及び交換

センターの出版物を，本年度も従来どおり国内の大学，研究所，在日各国公館など約200個所，国外の大学，研究所，国際的機関など約300個所に定期的に寄贈した。また国内の研究機関約50個所，国外の研究機関約100個所から定期的に出版物の寄贈をうけた。

3.　出版物の作成

3－A．機関誌East Asian Cultural Studiesの刊行

本年度は，Vol. XXIV, Nos. 1－4合併号（213 p.）を刊行した。内容は，昭和58年6月6日より同月10日の5日間にわたって開催された国際会議「アジア諸国の稲作文化」の報告書である。タイトルおよび目次は次のとおりである。

"International Symposium on Civilizations Related to Rice Cultivation in Asian Countries, Kyoto, 6－10 June 1983." Edited by Tadayo Watabe and Shigeru Ikuta.

Preface
Part Ⅰ Proceedings
Prospectus
Agenda and Topics for Discussion
Programme
List of Participants
Final Report
Summary of Discussion
Part Ⅱ Papers
Origin and Dispersal of Rice in Asia, by Watabe Tadayo

Types of Rice Cultivation and Its Related Civilizations in Vietnam, by Dao Thê Tuân

Rice of Bangladesh and Its Uses, by Abdul Halim

Utilization of Rice in Traditional Korean Society, by Lee Chun-Yung

Rice and Politics in Bangladesh, by Abdul Halim

Social and Ecological Context of Rice Cultivation in India, by Surajit Sinha

The Significance of Wet Rice Cultivation for Swidden Cultivators: The Case of the Karens, by Iijima Shigeru

Rice Cultivation and Politics in the Sukhothai State, by Dhida Saraya

Social Implications of Rice Cultivation in Thai Village Life, by Srisakra Vallibhotama

Rice Culture, Viewed from Myths, Legends, Rituals, Customs, and Artistic Symbolism Relating to Rice Cultivation in Indonesia, by Ismani

Rice Field Rituals in Malaysia, by Zainal Kling

Rituals, Beliefs, and Art Related to Rice Cultivation in the Philippines, by Samuel K. Tan

Myths of Agricultural Origins in the Indo-Pacific Area: A Culture-Historical Approach, by Obayashi Taryo

Rice in Malagasy Oral Tradition, by R. Bemananjara Zefaniasy

Part Ⅲ Progress Reports of Country Studies

Bangladesh, by Abdul Halim

India, by Surajit Sinha

Japan, by Watabe Tadayo

Republic of Korea, by Lee Kwang-Kyu

Malaysia, by Zainal Kling

The Philippines, by Samuel K. Tan

Thailand, by Srisakra Vallibhotama

Vietnam, by Dao Thê Tuân

3—B. アジア史料叢刊（Asian Historical Material Series）

『ラーマー世年代記』第2巻註釈篇の編集および，チャン・ヴァン・ザップ著，グエン・カク・カム翻訳『ベトナム書誌』の英文編集を継続した。

3—C. 東アジア文化研究叢書（East Asian Cultural Studies Series）

次の出版計画を検討した。

3—D. 日本における哲学思想文献の翻訳

上記の出版計画に関して，日本において英文出版を行っている出版社数社の代表を招聘して下記のとおり研究会を開催した。

3月28日：「日本における英文図書刊行の現状とその問題点」

3—E.『日本における東洋学の回顧と展望』Oriental Studies in Japan: Retrospect and Prospect, 1963－1972

下記の2点を刊行した。

Part I－3 Archaeology（日本）, by Yoshida Shōichirō

Index of Personal Names, Part II

さらに下記の2点を100部づつ増刷した。

Part II－9 Chinese Philosophy and Religion

Part II－16 Modern Inner Asia

3—F. アジアにおける最近の考古学的発見（Recent Archaeological Discoveries in Asia）

本年度は第三冊目として『インドにおける最近の考古学的発見』（Recent Archaeological Discoveries in India, by B. K. Thapar）を刊行した。目次は次のとおり

である。

List of Illustrations
Preface
Introduction
Acknowledgement
(1) The Palaeolithic Cultures
(2) The Mesolithic Cultures
(3) The Prehistoric Art
(4) The Neolithic cultures
(5) The Indus Civilization
(6) The Other Chalcolithic Cultures and Copper Hoards
(7) The Megalithic Cultures
(8) The Historical Period
Bibliography
Plates

4. 業務報告

A. 運営委員会・顧問会議

運営委員会

前　期　開催日　昭和59年5月29日（火曜日）午後1時30分～3時

場　所　東洋文庫会議室

報　告　1. 昭和58年度事業報告及び決算報告について

議　題　1. 昭和59年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の異動について

3. 運営委員の改選について

後　期　開催日　昭和59年11月20日（火曜日）午後1時30分～3時

場　所　東洋文庫会議室

報　告　1. 昭和59年度事業中間報告及び会計中間報告について

議　題　1. 昭和60年度概算要求について

顧問会議

開催日　昭和59年5月29日（火曜日）午後1時30分～3時

場　所　東洋文庫会議室

報　告　1. 昭和58年度事業報告及び決算報告について

議　題　1. 昭和59年度事業計画案及び予算案について

2. 運営委員の異動について

3. 運営委員の改選について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
59. 4. 3	運営委員	大石嘉一郎	退任	前東京大学社会科学研究所所長
4. 4	〃	戸原 四郎	就任	東京大学社会科学研究所所長
4.19	〃	大野 盛雄	退任	前東京大学東洋文化研究所所長
4.20	〃	尾上 兼英	就任	東京大学東洋文化研究所所長
6. 6	〃	上山 春平	退任	前京都大学人文科学研究所所長
6. 7	〃	吉田 光邦	就任	京都大学人文科学研究所所長
6.14	〃	前田 陽一	退任	国際文化会館専務理事
6.18	〃	河野 靖	就任	上智大学アジア文化研究所客員研究員
7. 5	〃	斉木 俊男	退任	前文部省学術国際局ユネスコ国際部部長
7. 6	〃	西崎 信郎	就任	文部省大臣官房審議官
60. 3.31	〃	新田 英治	退任	東京大学史料編纂所所長
〃	〃	渡部 忠世	〃	京都大学東南アジア研究センター所長
〃	〃	吉田 光邦	〃	京都大学人文科学研究所所長

C. 職員異動

年月日	職名	氏名	区分	備考
59.7.2～8.22	専門員	John Wisnom		
60. 3.31	研究員	志茂 碩敏	退職	
〃	係員	直井 靖夫	〃	

D. 受賞

年月日	役職名	氏名	区分	備考
59. 5. 9	運営委員	中村 元	叙勲	勲一等瑞宝章

E. 表　彰

年月日	職　名	氏　名	区分	備　考
59.11.19	普及室長 研究員	外池　明江	勤　続	財団法人東洋文庫より勤続20年

F. 会計報告

昭和59年度ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

（昭和60年3月31日現在）

支出の部		収入の部	
科　目	金額(千円)	科　目	金額(千円)
経常費	57,644	国庫補助金	80,019
人件費	54,138	ユネスコ援助金	2,532
事務費	3,506	(財)放送文化基金助成援助金	6,000
事業費	31,620	財産収入	10
研究経費	9,356	雑収入	703
長期調査研究費	7,104		
一般調査研究費	1,639		
特別調査研究費	613		
研究者の交流及び普及活動経費	3,194		
研究文献の収集・目録の作成・翻訳出版等経費	11,529		
国際的協同調査費	7,541		
計	89,264	計	89,264

5. 役職員名簿

昭和60年3月31日現在のユネスコ東アジア文化研究センターの役職員は以下のとおりです。

A.所長 護 雅夫

副所長 松村 潤

B.運営委員

氏 名	現 職
岩生成一	日本学士院会員
植木 浩	文部省大臣官房審議官
梅棹忠夫	国立民族学博物館館長
梅田博之	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長
岡野 澄	東京工業高等専門学校名誉教授・財団法人東洋文庫評議員
尾高邦雄	東京大学名誉教授
尾上兼英	東京大学東洋文化研究所所長
河野 靖	上智大学アジア文化研究所客員研究員
仙石 敬	国際交流基金専務理事
高田 修	東京国立文化財研究所名誉研究員
戸原四郎	東京大学社会科学研究所所長
中村 元	日本学士院会員・東方学院長・東京大学名誉教授
西崎信郎	文部省大臣官房審議官
新田英治	東京大学史料編纂所所長
服部四郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授
福井康順	早稲田大学名誉教授
福井直俊	財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長
森崎久寿	アジア経済研究所所長
山本達郎	日本学士院会員・東京大学名誉教授・財団法人東洋文庫理事
吉田光邦	京都大学人文科学研究所所長
渡部忠世	京都大学東南アジア研究センター所長

C. 顧　　問

氏　　名	現　　職
大崎　仁	文部省学術国際局局長・日本ユネスコ国内委員会事務総長
佐治敬三	日本ユネスコ国内委員会会長
佐藤正二	国際交流基金理事長
前田充明	財団法人文教協会会長・城西大学名誉学長・財団法人東洋文庫評議員

D. 参　　与

氏　　名	現　　職
青山秀夫	日本学士院会員・京都大学名誉教授
織田武雄	京都大学名誉教授
田村実造	〃
長尾雅人	日本学士院会員・京都大学名誉教授
丸山真男	日本学士院会員・東京大学名誉教授
三上次男	東京大学名誉教授
宮崎市定	京都大学名誉教授

E. 専 門 員

Christian Ashley Daniels

F．職　　員

職　名	氏　名		
調査資料室長	生田　滋		
普及室長	外池明江		
庶務外事室長	松前義治		
研究員	志茂碩敏	本庄比佐子	
研究助手	飯田隆子	設楽靖子	坂本葉子
係員	酒井敬子	直井靖夫	

G．臨時職員

昭和59年4月1日から昭和60年3月31日に至る間に臨時職員として在籍した者は，以下のとおりです。

内野佳子，宇野伸浩，江川ひかり，岡　洋樹，片山章雄，清水敏江，中村文子，保坂修司
水野美香，山本佳世子，ヤマンラール水野美奈子

財団法人 東洋文庫年報 昭和59年度

昭和60年10月25日 発行 （非売品）

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東 洋 文 庫
榎 一 雄

印刷者 東京都練馬区大泉町3丁目34番10号
有限会社 日 本 興 業 社

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東 洋 文 庫

本書は昭和60年度財団法人東洋文庫に対する文部省補助金の一部によって刊行されたものである。